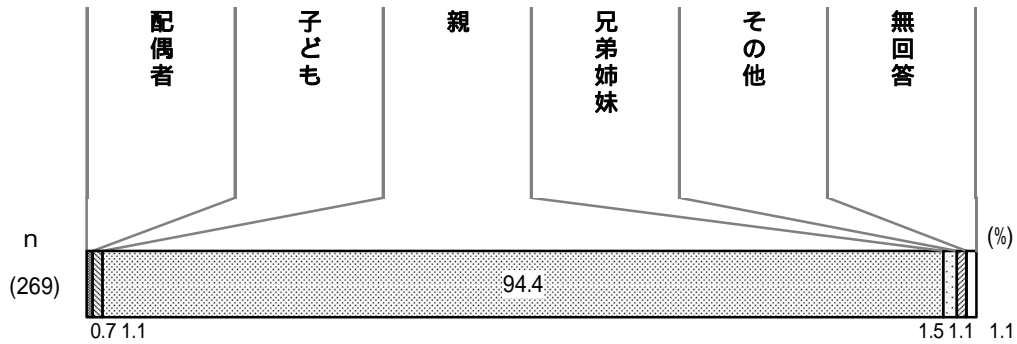


アンケート調査
(知的障害者の家族)

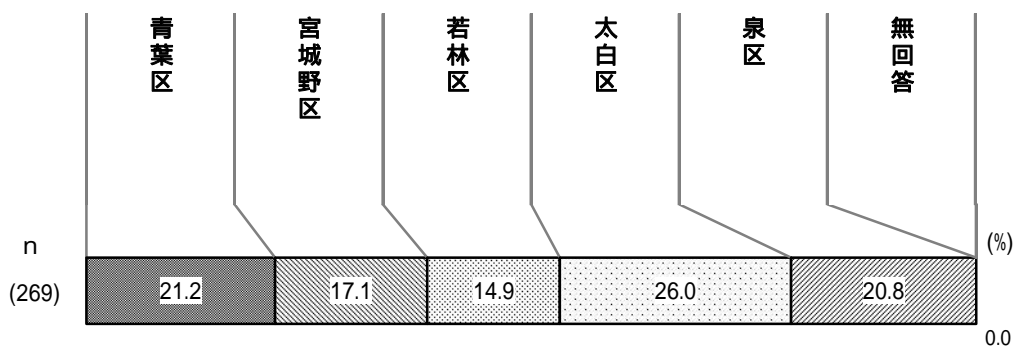
1 基本的な属性について

問1 この調査票の記入者は誰ですか。(S A)



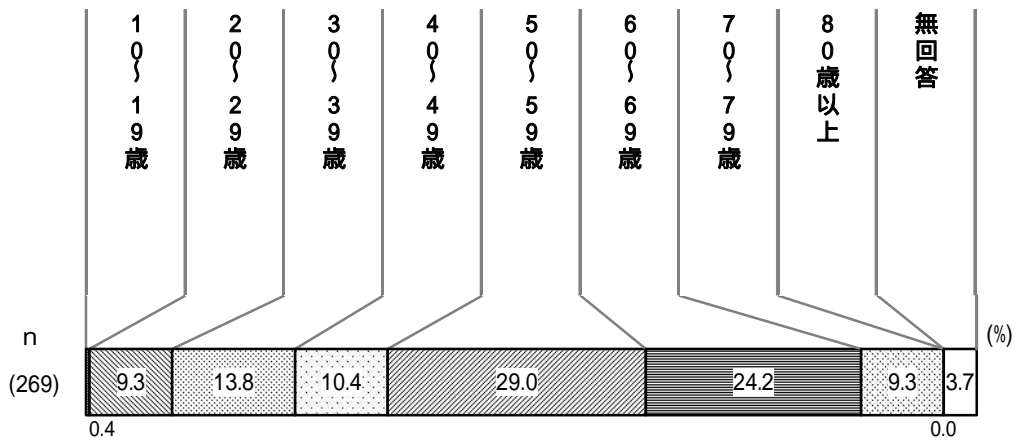
調査票の記入者については、「親」が94.4%を占めている。

問2 あなたのお住まいの区はどこですか。(S A)



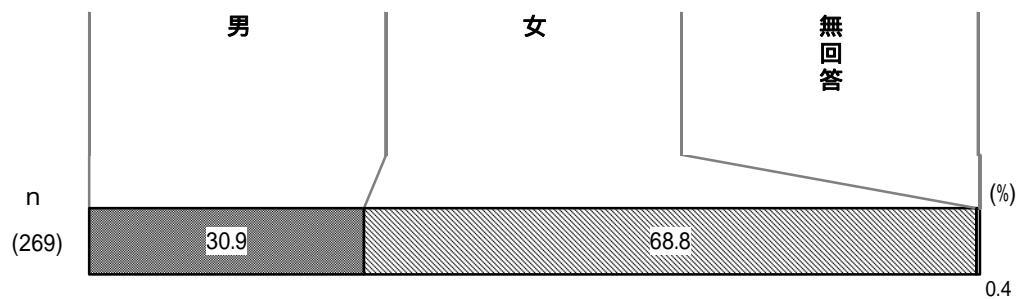
居住区については、「太白区」(26.0%)が最も多く、以下「青葉区」(21.2%)、「泉区」(20.8%)、「宮城野区」(17.1%)、「若林区」(14.9%)となっている。

問3 あなたの年齢は何歳ですか。(数値)



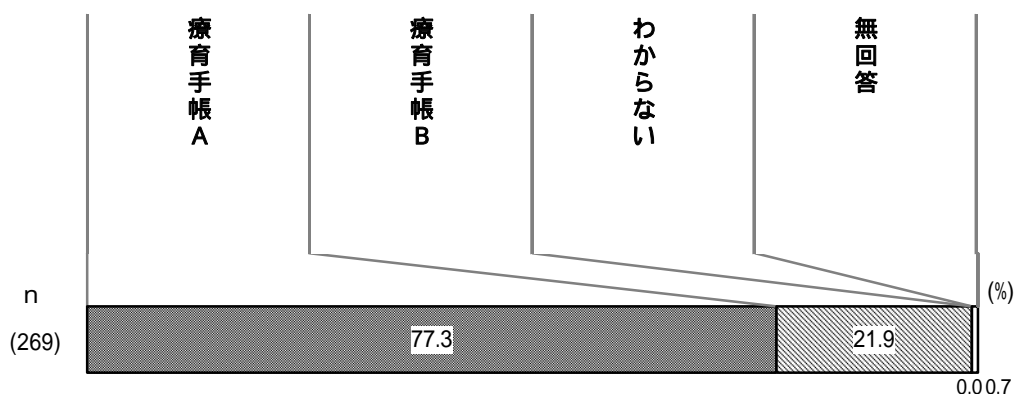
年齢については、「50～59歳」(29.0%)が最も多く、以下「60～69歳」(24.2%)、「30～39歳」(13.8%)、「40～49歳」(10.4%)、「20～29歳」、「80歳以上」(ともに9.3%)となっている。

問4 あなたの性別は男、女のどちらですか。(SA)



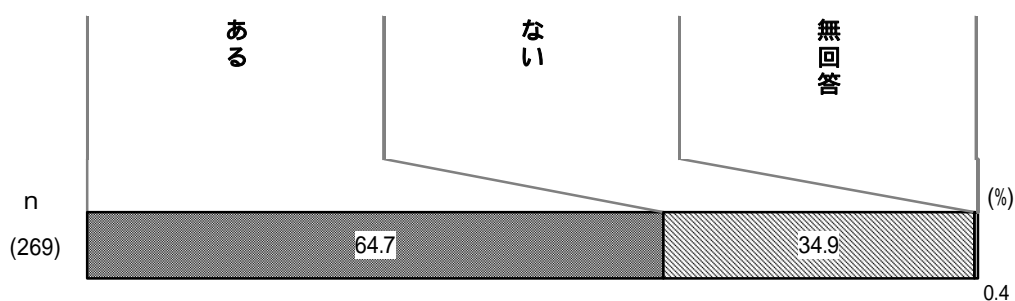
性別については、「女」が68.8%、「男」が30.9%となっている。

問5 ご本人の持っている療育手帳の障害の程度はA、Bどちらですか。(S A)



療育手帳の種類については、「療育手帳 A を持っている」人が 77.3% を占めており、「療育手帳 B を持っている」人は 21.9% となっている。

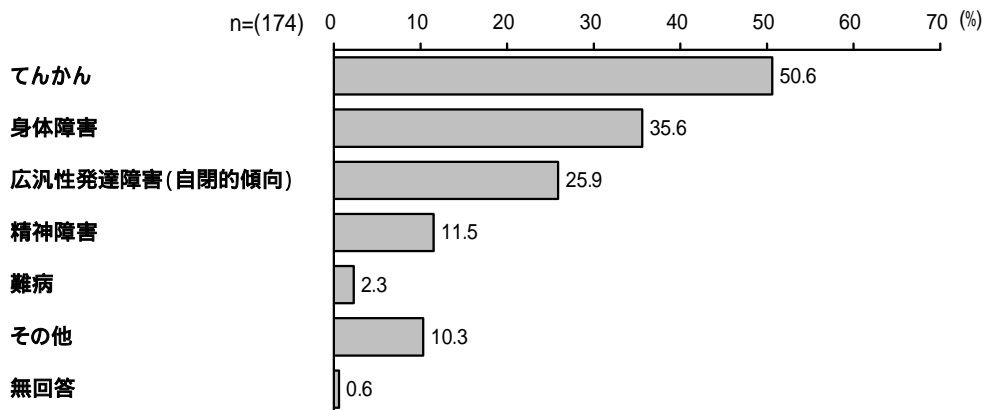
問6 ご本人は知的障害以外の障害はありますか。(S A)



知的障害以外の障害が「ある」人は 64.7%、障害が「ない」人は 34.9% となっている。

問7 6において「1 ある」を選択した方におたずねします。

(1) ご本人はどのような障害がありますか。(MA)



知的障害以外の障害の種類については、「てんかん」(50.6%)が最も多く、以下「身体障害」(35.6%)、「広汎性発達障害(自閉的傾向)」(25.9%)、「精神障害」(11.5%)となっている。

(2)(1)において「1 身体障害」を選択した方におたずねします。

ご本人は身体障害者手帳を持っていますか。(SA)

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	1 級を持っている	2 級を持っている	3 級を持っている	4 級を持っている	5 級を持っている	6 級を持っている	7 級を持っている	持っていない	わからない	無回答
62	28	11	8	2	7	2	0	2	1	1
100.0	45.2	17.7	12.9	3.2	11.3	3.2	0.0	3.2	1.6	1.6

身体障害者手帳の有無については、「1 級を持っている」人(28件)が最も多く、以下「2 級を持っている」(11件)、「3 級を持っている」(8件)、「5 級を持っている」(7件)となっている。

(3)(1)において「2 精神障害」を選択した方におたずねします。

ご本人は精神障害者保健福祉手帳を持っていますか。(S A)

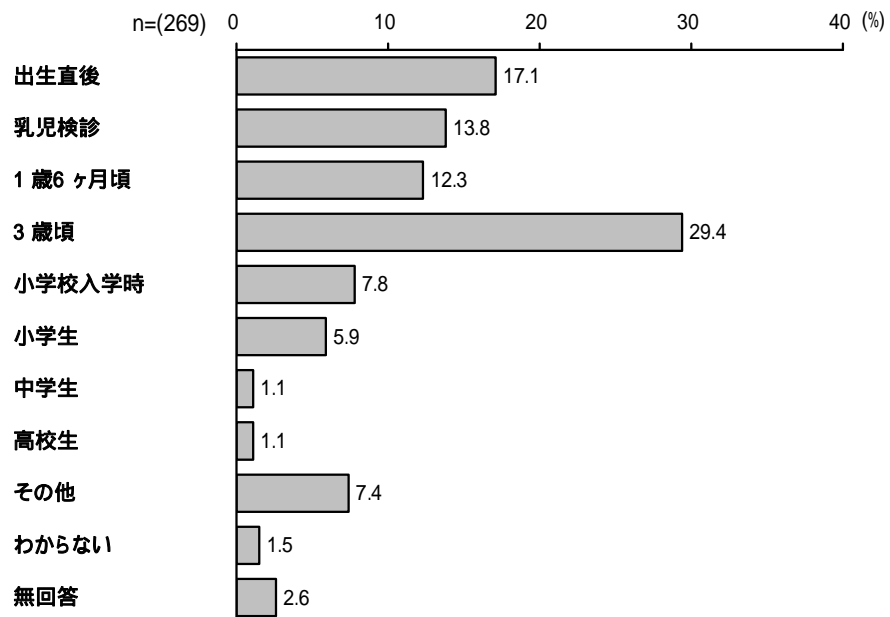
(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	1 級を 持っ ている	2 級を 持っ ている	3 級を 持っ ている	持 っ て い な い	わ か ら な い	無 回 答
20	4	3	0	9	2	2
100.0	20.0	15.0	0.0	45.0	10.0	10.0

精神障害者保健福祉手帳の有無については、「1 級を持っている」人は4件、「2 級を持っている」人は3件となっている。

一方、「持っていない」人は9件となっている。

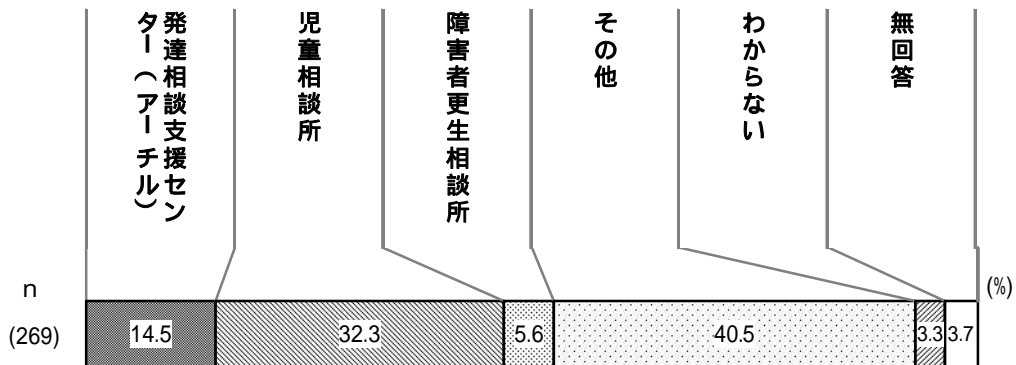
問8 ご本人が障害の診断を受けたのはいつ頃ですか。(S A)



障害の診断を受けた時期については、「3 歳頃」(29.4%)が最も多く、以下「出生直後」(17.1%)、「乳児検診のとき」(13.8%)、「1 歳6 ヶ月頃」(12.3%)となっている。

2 住まいと暮らしについて

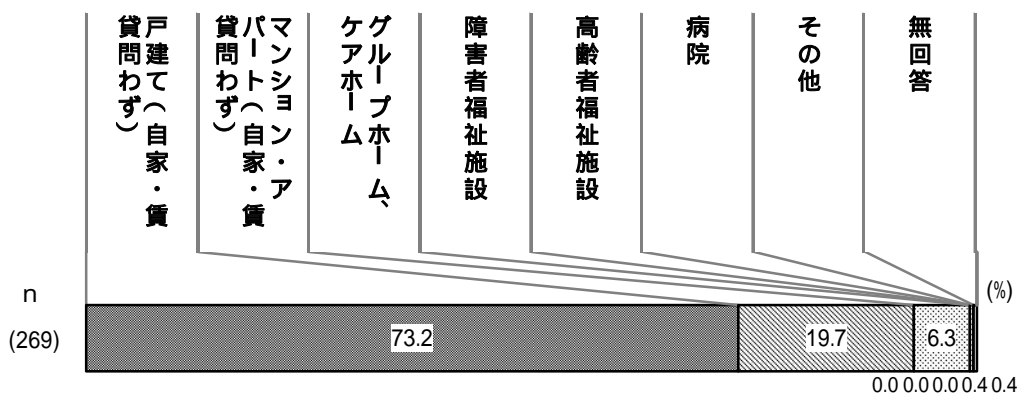
問9 その診断を受けたところはどこですか。(S A)



障害の診断を受けた場所については、「児童相談所」(32.3%)が最も多く、以下「発達相談支援センター(アーチル)」(14.5%)、「障害者更生相談所」(5.6%)となっている。

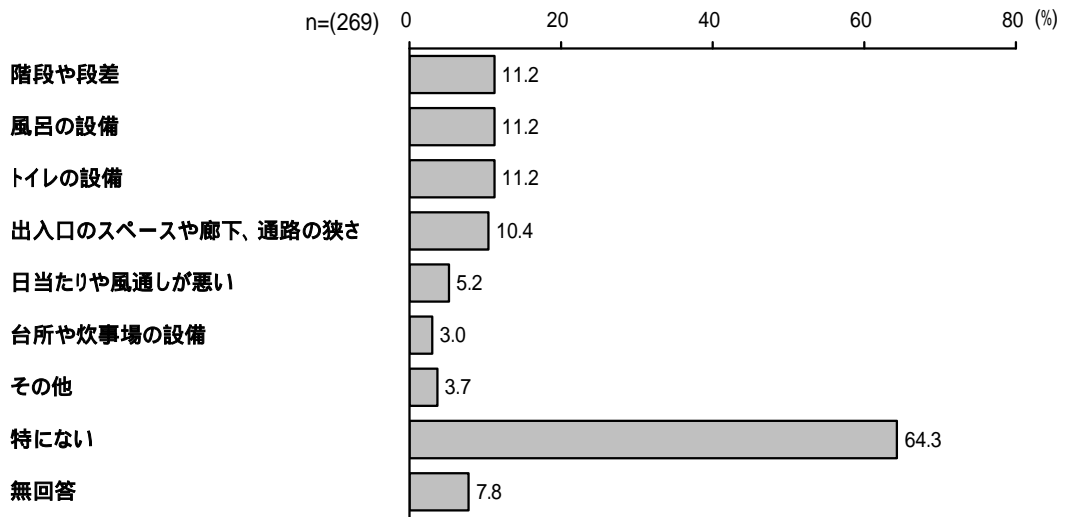
なお、「その他」(40.5%)の内容としては、病院や医療センター等の医療機関があげられている。

問10 現在、ご本人のお住まいは次のうちどれですか。(S A)



現在の住まいについては、「戸建て(自家・賃貸問わず)」が73.2%を占めている。

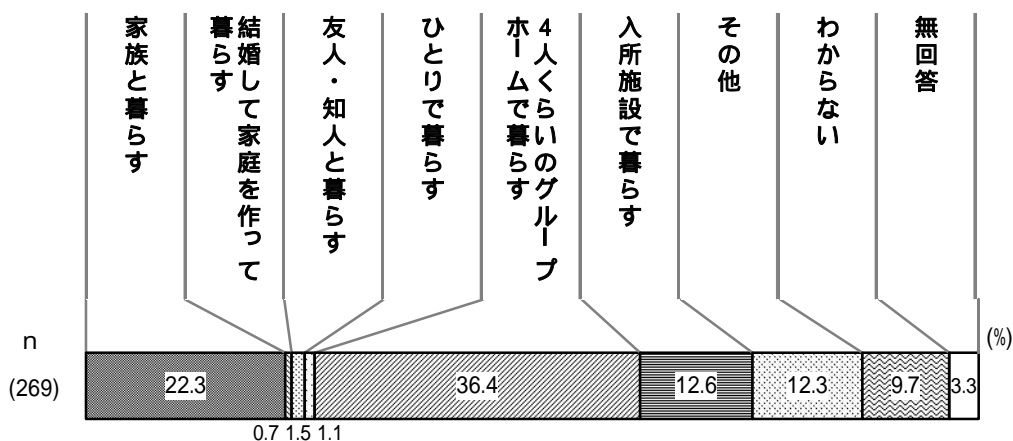
問 11 現在、ご本人がお住まいのことで困っていることはありますか。(M A)



現在の住まいで困っていることについては、「階段や段差」、「風呂の設備」、「トイレの設備」(ともに 11.2%) が多く、以下「出入口のスペースや廊下、道路の狭さ」(10.4%)、「日当たりや風通しが悪い」(5.2%)、「台所や炊事場の設備」(3.0%)となっている。

一方、「特にない」は 64.3%となっている。

問12 ご本人には、将来どのように暮らしてほしいですか。(S A)



将来の暮らしかたへの要望については、「4人くらいのグループホームで暮らす」(36.4%)が最も多く、以下「家族と暮らす」(22.3%)、「入所施設で暮らす」(12.6%)となっている。

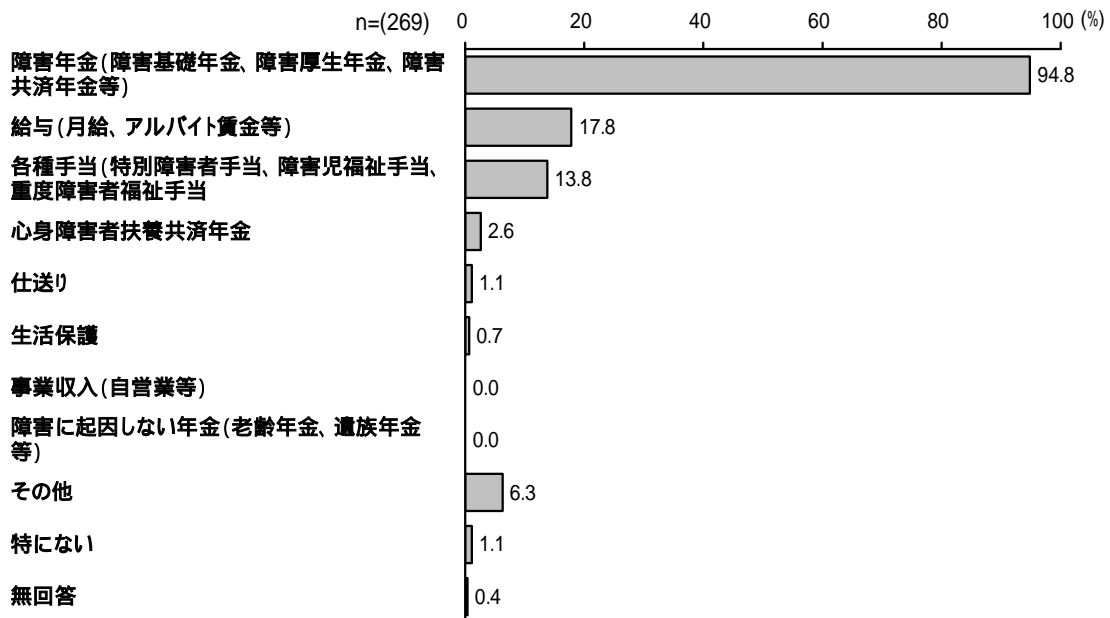
【年齢別】

	調査数 (n)	家族と暮らす	結婚して家庭を作つて暮らす	友人・知人と暮らす	ひとりで暮らす	4人くらいのグループホームで暮らす	入所施設で暮らす	その他	わからない	無回答
上段：件数 下段：%										
全体	269 100.0	60 22.3	2 0.7	4 1.5	3 1.1	98 36.4	34 12.6	33 12.3	26 9.7	9 3.3
17歳以下	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18～29歳	26 100.0	4 15.4	0 0.0	0 0.0	0 0.0	15 57.7	2 7.7	3 11.5	1 3.8	1 3.8
30～39歳	37 100.0	13 35.1	1 2.7	0 0.0	0 0.0	10 27.0	5 13.5	1 2.7	6 16.2	1 2.7
40～49歳	28 100.0	6 21.4	0 0.0	1 3.6	2 7.1	8 28.6	2 7.1	5 17.9	1 3.6	3 10.7
50～64歳	122 100.0	28 23.0	1 0.8	1 0.8	1 0.8	43 35.2	12 9.8	21 17.2	13 10.7	2 1.6
65～74歳	38 100.0	7 18.4	0 0.0	2 5.3	0 0.0	13 34.2	9 23.7	3 7.9	2 5.3	2 5.3
75歳以上	8 100.0	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 25.0	3 37.5	0 0.0	1 12.5	0 0.0

年齢別にみると、50～74歳では「4人くらいのグループホームで暮らす」が他の年代に比べやや多くなっている。

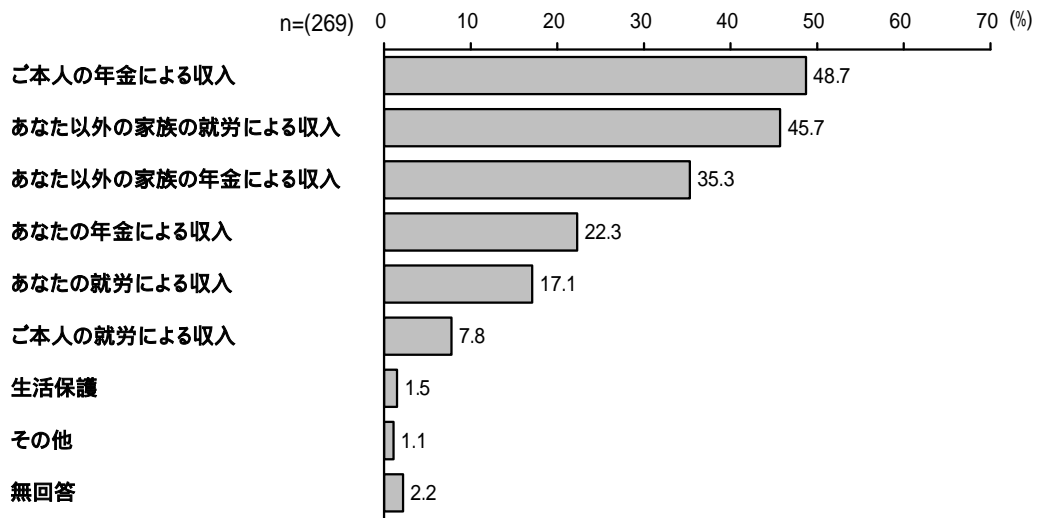
3 所得状況について

問 13 ご本人が得ている収入は次のうちどれですか。(M A)



本人が得ている収入の種類については、「障害年金 (障害基礎年金、障害厚生年金、障害共済年金など)」が 94.8% を占め、以下「給与 (月給、アルバイト賃金等)」(17.8%)、「各種手当 (特別障害者手当、障害児福祉手当、重度障害者福祉手当)」(13.8%)となっている。

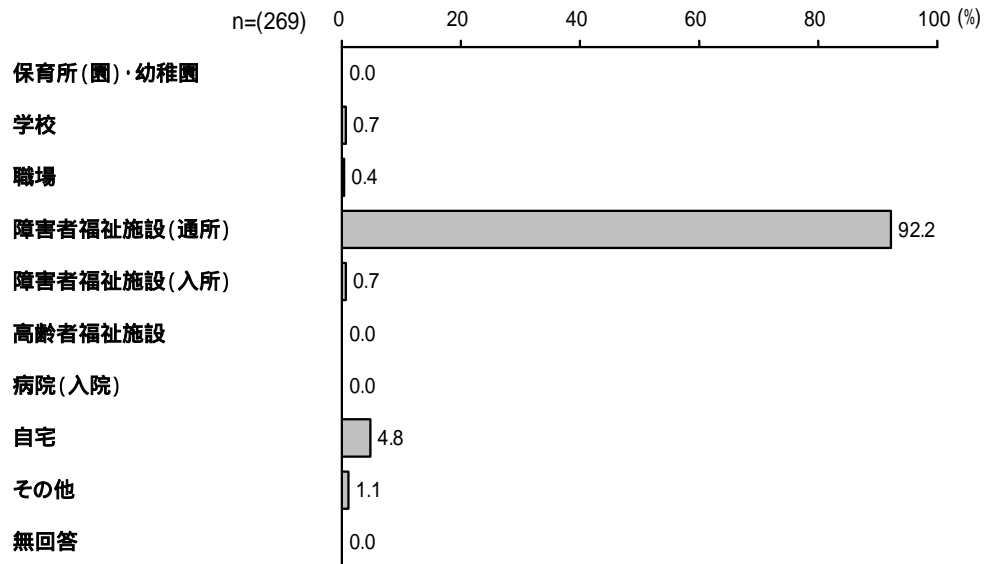
問 14 現在、あなたのご家庭の収入は次のうちどれに該当しますか。(M A)



家庭の収入については、「ご本人の年金による収入」(48.7%)、「あなた以外の家族の就労による収入」(45.7%)が多く、以下「あなた以外の家族の年金による収入」(35.3%)、「あなたの年金による収入」(22.3%)となっている。

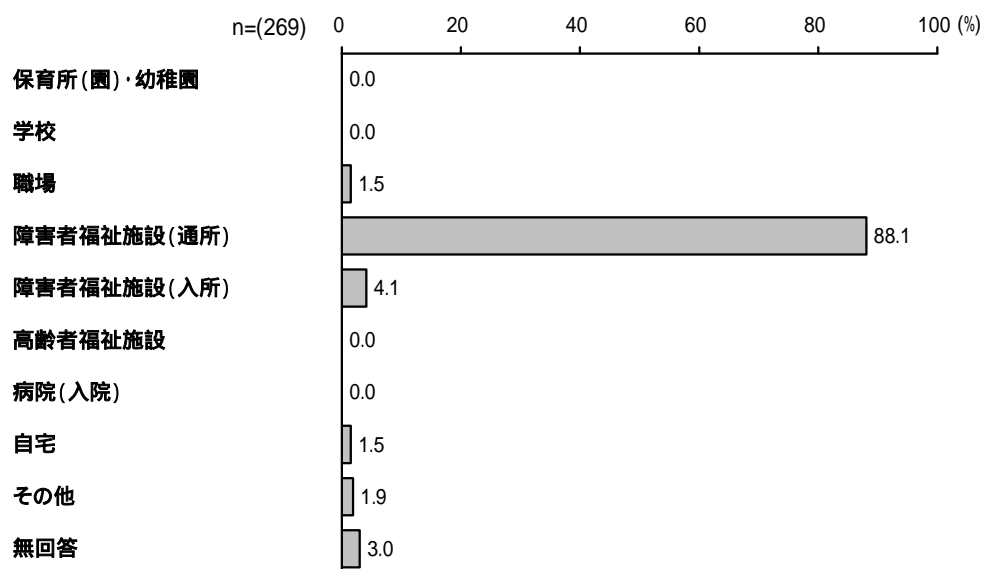
4 日常生活について

問 15 平日の日中、ご本人が主に過ごしている場所はどこですか。(S A)



平日の日中、主に過ごしている場所については、「障害者福祉施設(通所)」が92.2%を占めている。

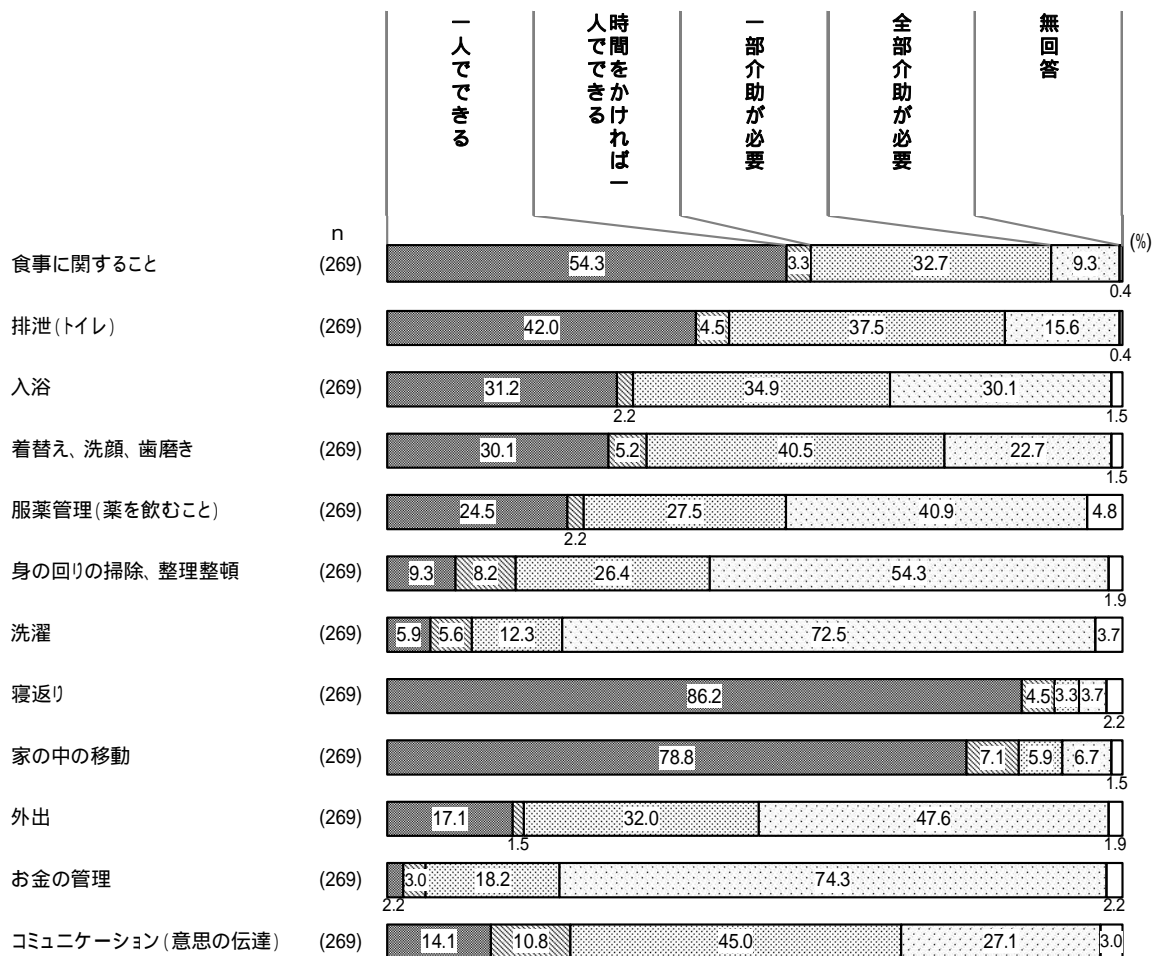
問 16 ご本人の今後の日中の活動場所について、あなたはどこがよいと思いますか。(S A)



平日の日中、今後、主に活動したい場所については、「障害者福祉施設(通所)」が88.1%を占めている。

問 17 ご本人は次の から までの動作を、自分ひとりでできますか。この場合、できる、できないの判断は現に所持している補装具や自助具を使用した状態で考えてください。

(S A)

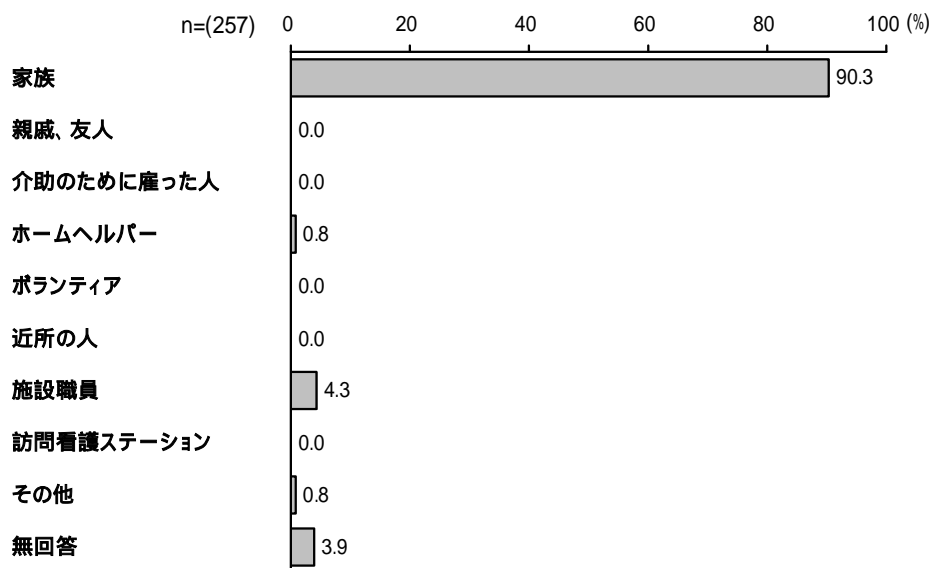


から のそれぞれ日常生活動作における介助の有無については、「一人できる」と「時間をかければ一人できる」を合わせた《一人できる》人が多い項目は、『寝返り』(90.7%)、『家の中の移動』(85.9%)、『食事にすること』(57.6%)、『排泄(トイレ)』(46.5%)となっている。

一方、「一部介助が必要」と「全部介助が必要」を合わせた《何らかの介助が必要》な人が最も多い項目は、『お金の管理』で92.5%を占めている。以下『洗濯』(84.8%)、『身の回りの掃除、整理整頓』(80.7%)、『外出』(79.6%)、『コミュニケーション(意思の伝達)』(72.1%)、『服薬管理(薬を飲むこと)』(68.4%)となっている。

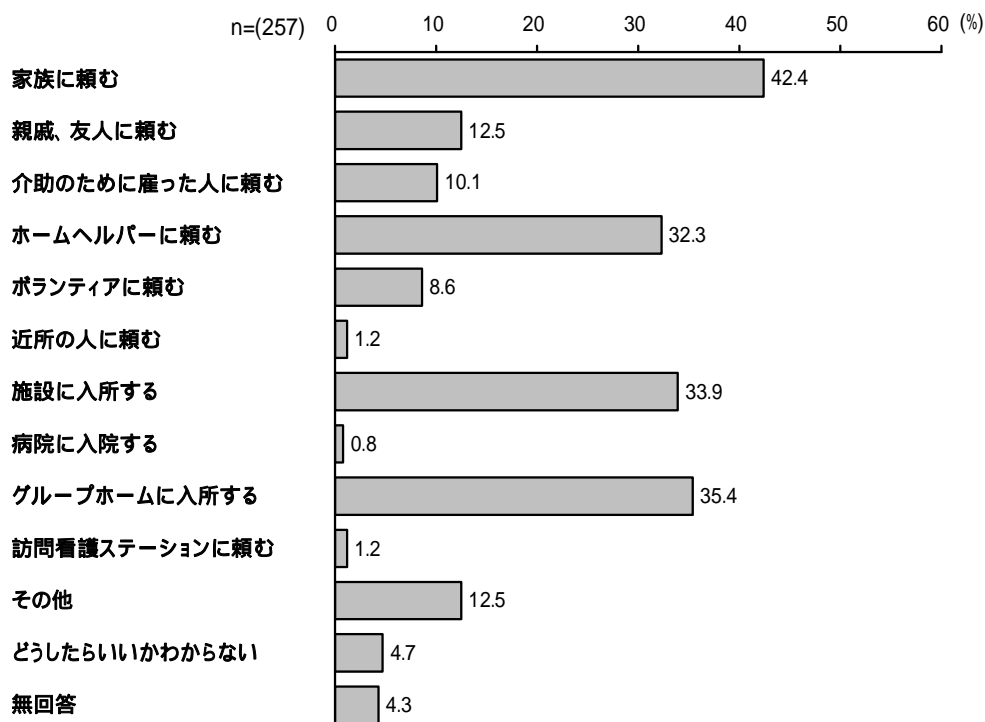
問 18 17 において「3 一部介助が必要」または「4 全部介助が必要」に1つでも つけた 方におたずねします。

(1) 主な介助者は誰ですか。(S A)



主な介助者については、「家族」が 90.3%を占めている。

(2) もし、現在の介助者に頼めなくなった場合どうしますか。(MA)



現在の介助者に頼めなくなった場合については、「家族に頼む」(42.4%)が最も多く、以下「グループホームに入所する」(35.4%)、「施設に入所する」(33.9%)、「ホームヘルパーに頼む」(32.3%)、「親戚、友人に頼む」(12.5%)となっている。

問 19 17において「3 一部介助が必要」または「4 全部介助が必要」に1つも をつけなかった方におたずねします。

介助が必要になった場合どうしますか。(SA)

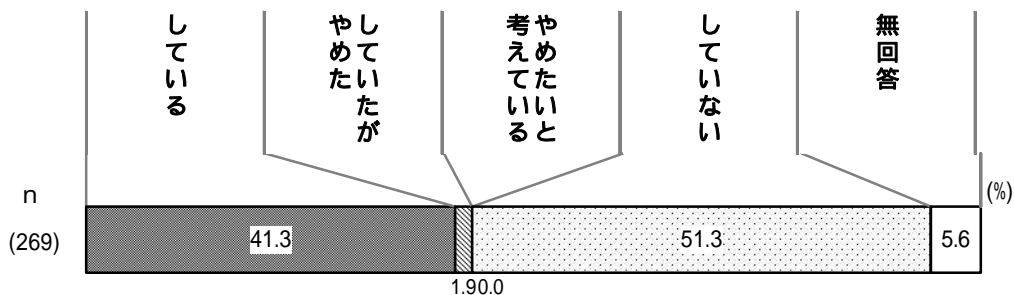
(上段: 件数、下段: %)

調査数 (n)	家族に頼む	親戚、友人に頼む	介助のために雇った人に頼む	ホームヘルパーに頼む	ボランティアに頼む	近所の人に頼む	施設に入所する	病院に入院する	グループホームに入所する	訪問看護ステーションに頼む	その他	どうしたらいいかわからない	無回答
11	0	0	0	1	0	0	0	0	2	0	1	2	5
100.0	0.0	0.0	0.0	9.1	0.0	0.0	0.0	0.0	18.2	0.0	9.1	18.2	45.5

今後、介助が必要になった場合については、「グループホームに入所する」(2件)、「ホームヘルパーに頼む」(1件)となっている。

5 就労状況について

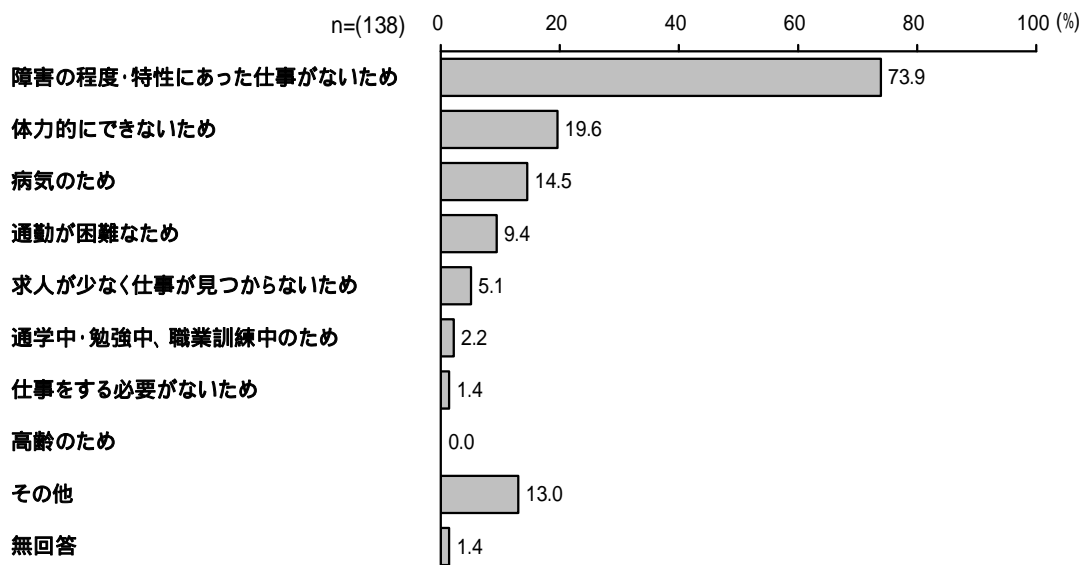
問 20 ご本人は、現在仕事をしていますか。(S A)



仕事の有無については、仕事を「している」人は41.3%となっており、一方、仕事を「していない」人は51.3%と、仕事をしている人をやや上回っている。

問 21 20において「4 していない」を選択した方におたずねします。

仕事をしていない理由は何ですか。(M A)

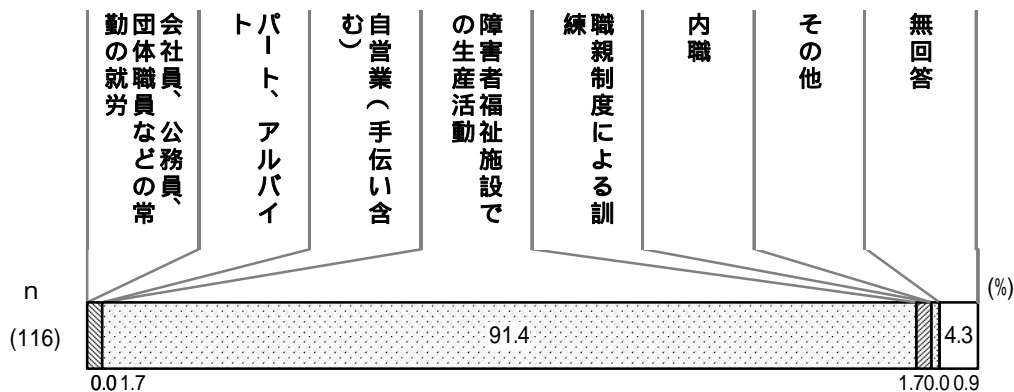


仕事をしていない理由については、「障害の程度・特性にあった仕事がないため」が73.9%を占めており、以下「体力的にできないため」(19.6%)、「病気のため」(14.5%)、「通勤が困難なため」(9.4%)となっている。

なお、「その他」(13.0%)の内容としては、施設に通所するためや重度障がいのためなどがあげられている。

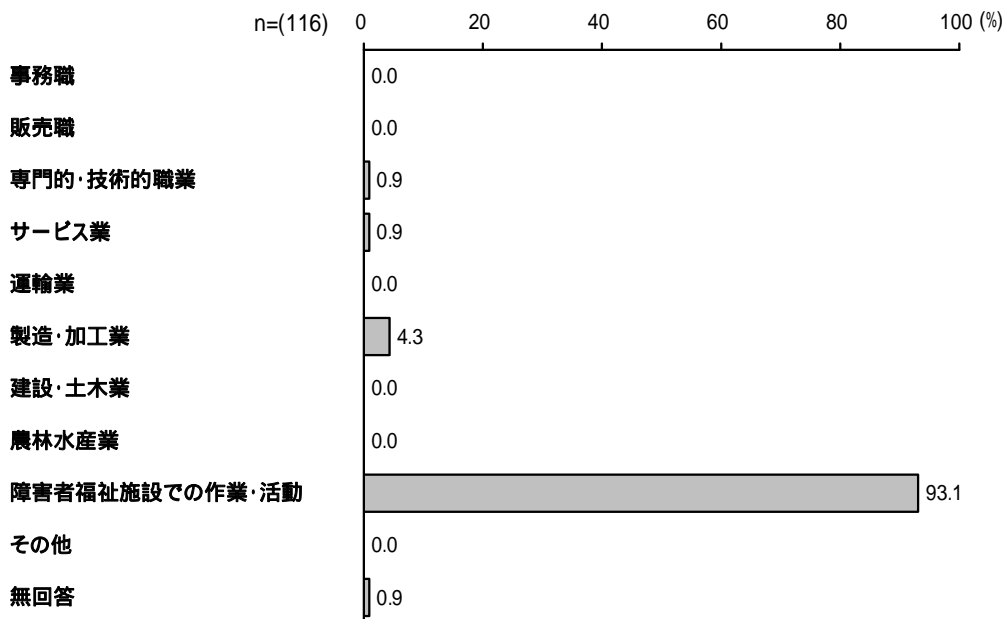
問 22 20 において「1 している」または「2 していたがやめた」を選択した方におたずねします。

(1) どのような仕事に就いていますか(いましたか) (SA)



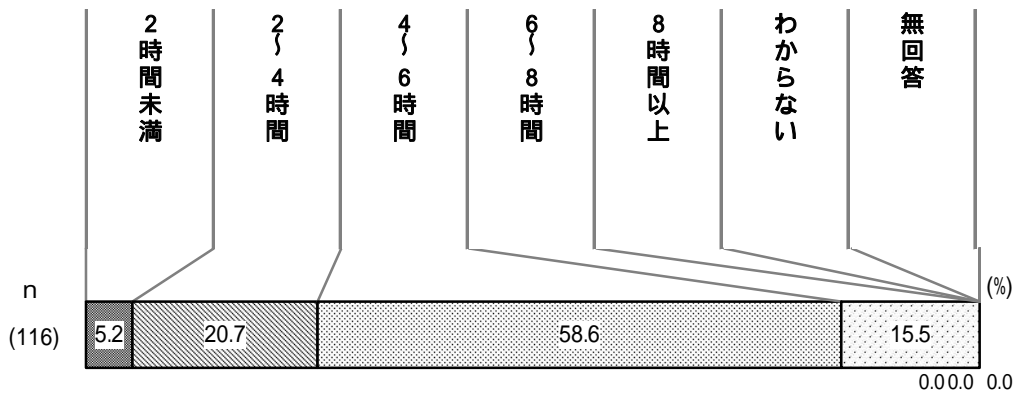
就いている仕事の種類については、「障害者福祉施設での生産活動」が 91.4%を占めている。

(2) どのような内容の仕事をしていますか(いましたか) (SA)



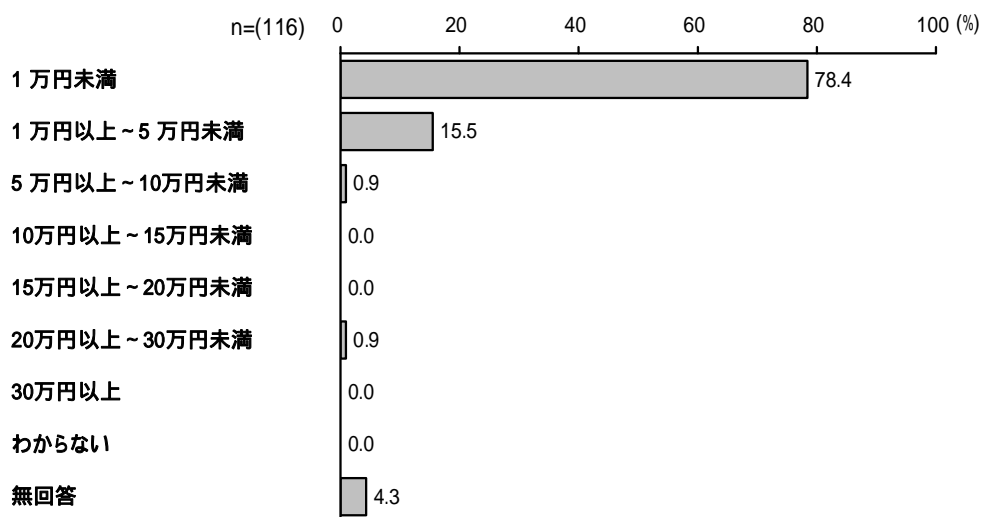
就いている仕事の内容については、「障害者福祉施設での作業・活動」が 93.1%を占めている。

(3) 1日あたりの仕事の時間はどのくらいですか(でしたか)。(SA)



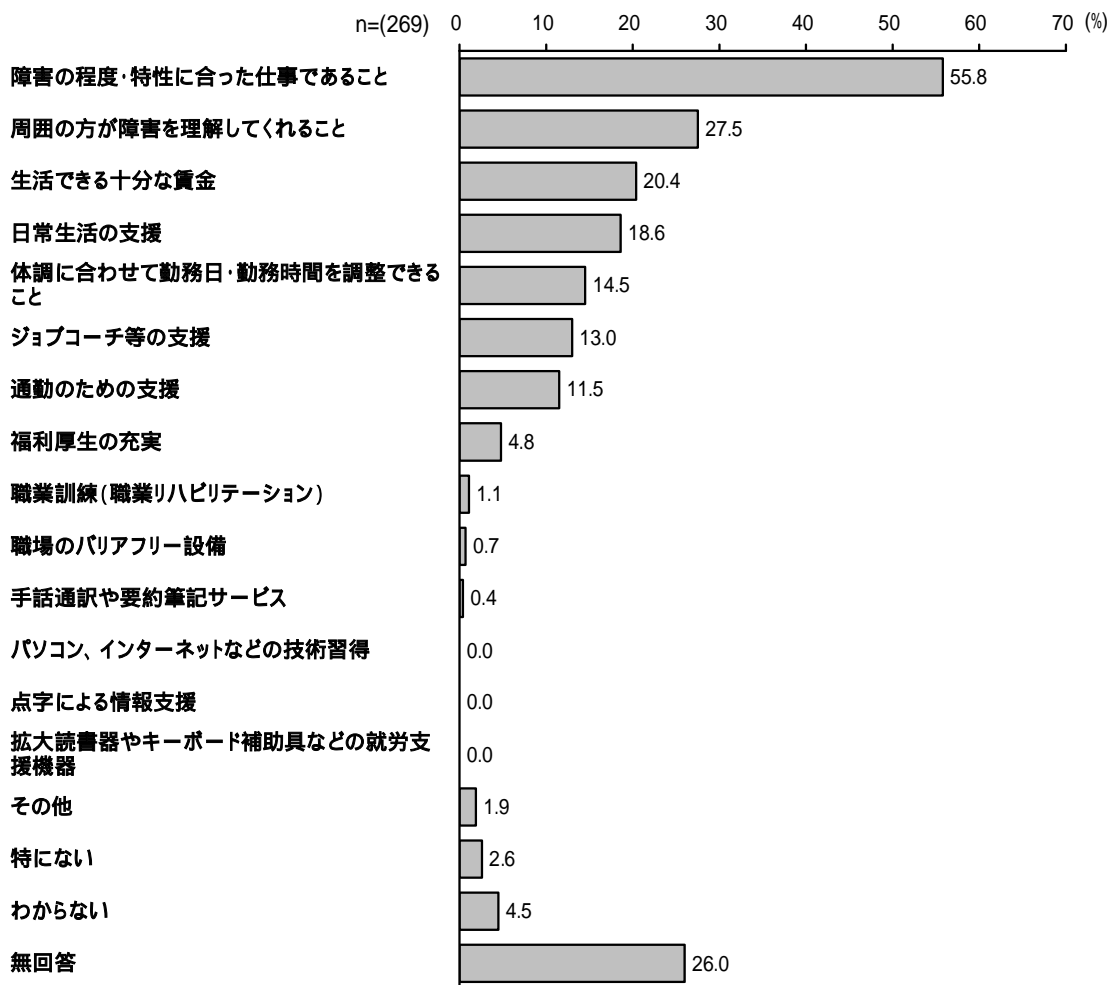
1日あたりの仕事時間については、「4~6時間」(58.6%)が最も多く、以下「2~4時間」(20.7%)、「6~8時間」(15.5%)となっている。

(4) 仕事による収入は月額どのくらいですか(でしたか)。(SA)



仕事による月収については、「1万円未満」が78.4%を占めており、以下「1万円以上~5万円未満」(15.5%)、「5万円以上~10万円未満」(0.9%)となっている。

問 23 ご本人が仕事を続ける（仕事に就く）ためには何が必要と思いますか。（ M A ）



仕事を続ける（就職する）ために必要なことについては、「障害の程度・特性に合った仕事であること」(55.8%)が最も多く、以下「周囲の方が障害を理解してくれること」(27.5%)、「生活できる十分な賃金」(20.4%)、「日常生活の支援」(18.6%)、「体調に合わせて勤務日・勤務時間を調整できること」(14.5%)、「ジョブコーチ等の支援」(13.0%)となっている。

【仕事の有無別】

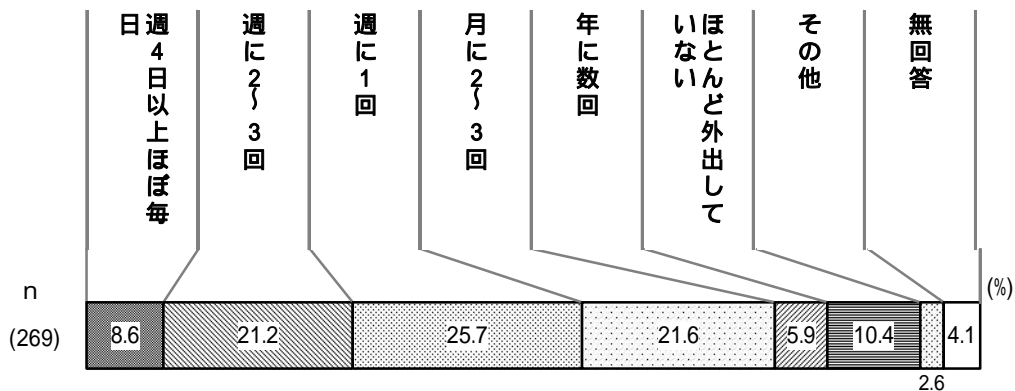
上段：件数 下段：%	調査数（n）	障害の程度・特性に合った仕事であること	周囲の方が障害を理解してくれらること	生活できる十分な賃金	日常生活の支援	と勤務時間を調整できること	体調に合わせて勤務日・勤務時間を調整できること	ジョブコーチ等の支援	通勤のための支援	福利厚生の充実	職業訓練（職業リハビリテーション）	職場のバリアフリー設備	手話通訳や要約筆記サービス	パソコン、インターネットなどの技術習得
全体	269 100.0	150 55.8	74 27.5	55 20.4	50 18.6	39 14.5	35 13.0	31 11.5	13 4.8	3 1.1	2 0.7	1 0.4	0 0.0	
仕事をしている	111 100.0	91 82.0	40 36.0	45 40.5	31 27.9	19 17.1	18 16.2	19 17.1	9 8.1	3 2.7	2 1.8	0 0.0	0 0.0	
仕事をしていない	143 100.0	55 38.5	33 23.1	9 6.3	18 12.6	20 14.0	16 11.2	12 8.4	4 2.8	0 0.0	0 0.0	1 0.7	0 0.0	

上段：件数 下段：%	点字による情報支援	器補拡大読書器やキーボード	その他	特にない	わからない	無回答
全体	0 0.0	0 0.0	5 1.9	7 2.6	12 4.5	70 26.0
仕事をしている	0 0.0	0 0.0	1 0.9	0 0.0	1 0.9	3 2.7
仕事をしていない	0 0.0	0 0.0	4 2.8	7 4.9	11 7.7	56 39.2

仕事の有無別にみると、仕事をしている人はいずれの項目も仕事をしていない人をおおむね上回っており、特に「障害の程度・特性に合った仕事であること」では43ポイント、「生活できる十分な賃金」では34ポイントと大きく上回っている。

6 社会参加について

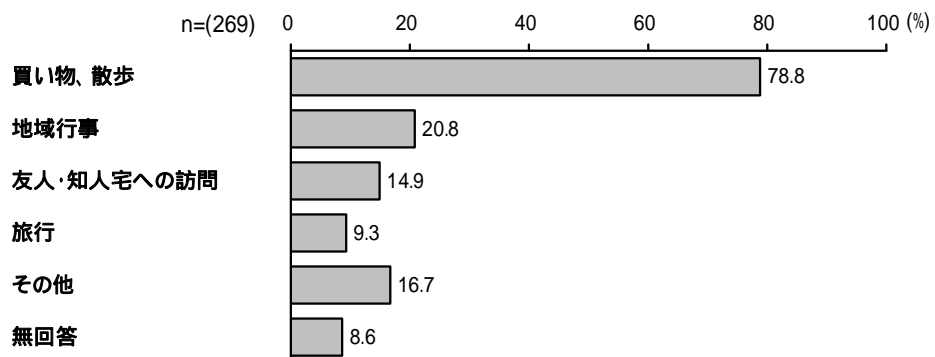
問 24 ご本人は通勤、通学、通院、通所以外でどの程度外出していますか。(S A)



外出頻度（通勤、通学、通院、通所を除く）については、「週に 1 回」（25.7%）が最も多く、以下「月に 2~3 回」（21.6%）、「週に 2~3 回」（21.2%）、「週 4 日以上ほぼ毎日」（8.4%）となっている。

一方、「ほとんど外出していない」人は 10.4%となっている。

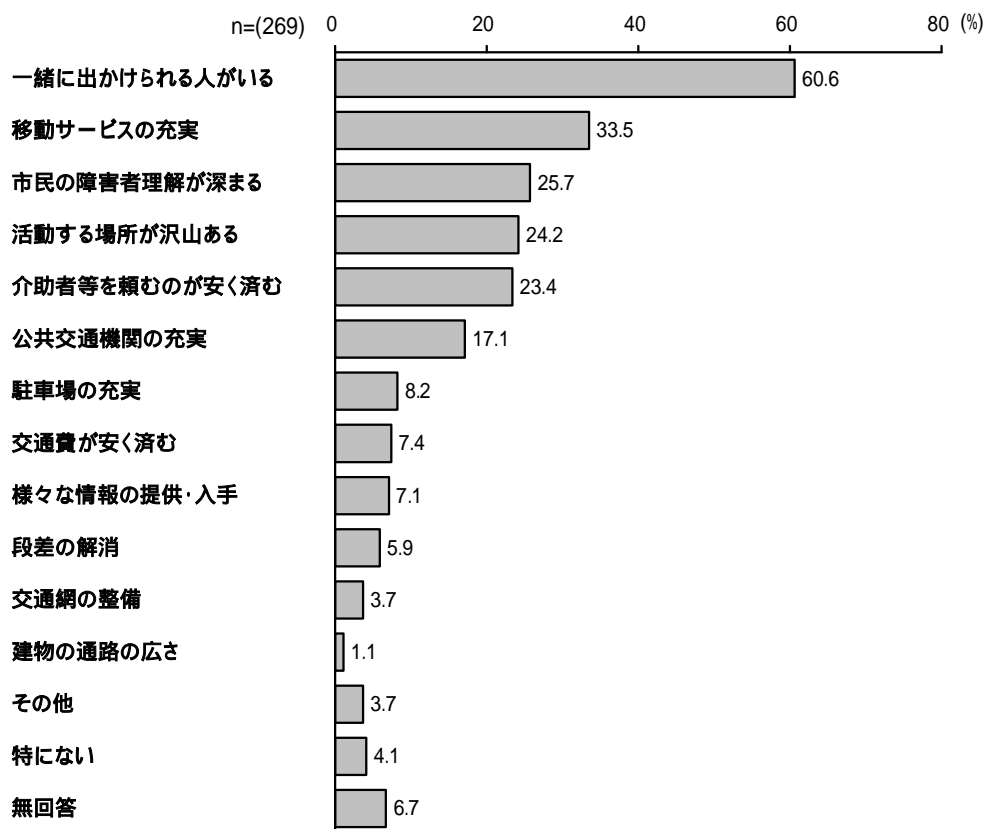
問 25 ご本人の主な外出の目的は何ですか。(M A)



外出の主な目的（通勤、通学、通院、通所を除く）については、「買い物、散歩」が 78.8%を占めており、以下「地域行事」（20.8%）、「友人・知人宅への訪問」（14.9%）となっている。

なお、「その他」（16.7%）の内容としては、習い事やカラオケ、ドライブなどがあげられている。

問 26 ご本人はどのようなことがあれば外出しやすくなると思いますか。(M A)



より外出しやすくなるために必要なことについては、「一緒に出かけられる人がいる」が 60.6% を占めており、以下「移動サービスの充実」(33.5%)、「市民の障害者理解が深まる」(25.7%)、「活動する場所が沢山ある」(24.2%)、「介助者等を頼むのが安く済む」(23.4%)、「公共交通機関の充実」(17.1%)となっている。

問 27 25 において「4 地域行事」を選択した方におたずねします。

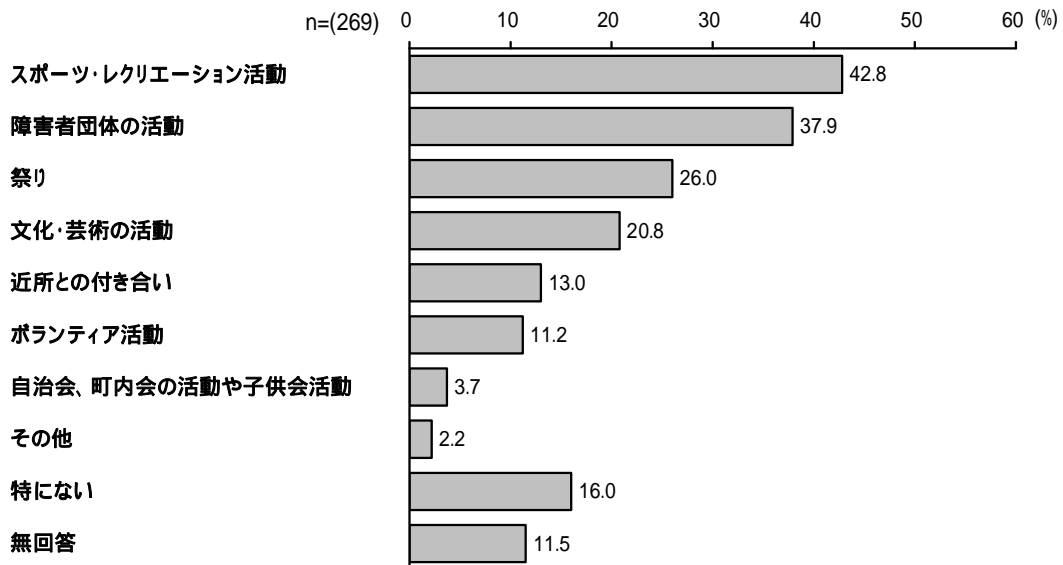
どんな行事に参加しましたか。(M A)

(上段 : 件数、下段 : %)

調査数 (n)	障害者団体の活動	地域のお祭り	スポーツ・レクリエーション活動	文化・芸術の活動	自治会、町内会の活動	ボランティア活動	その他	忘れてしまった	無回答
56	36	30	25	10	5	3	2	0	0
100.0	64.3	53.6	44.6	17.9	8.9	5.4	3.6	0.0	0.0

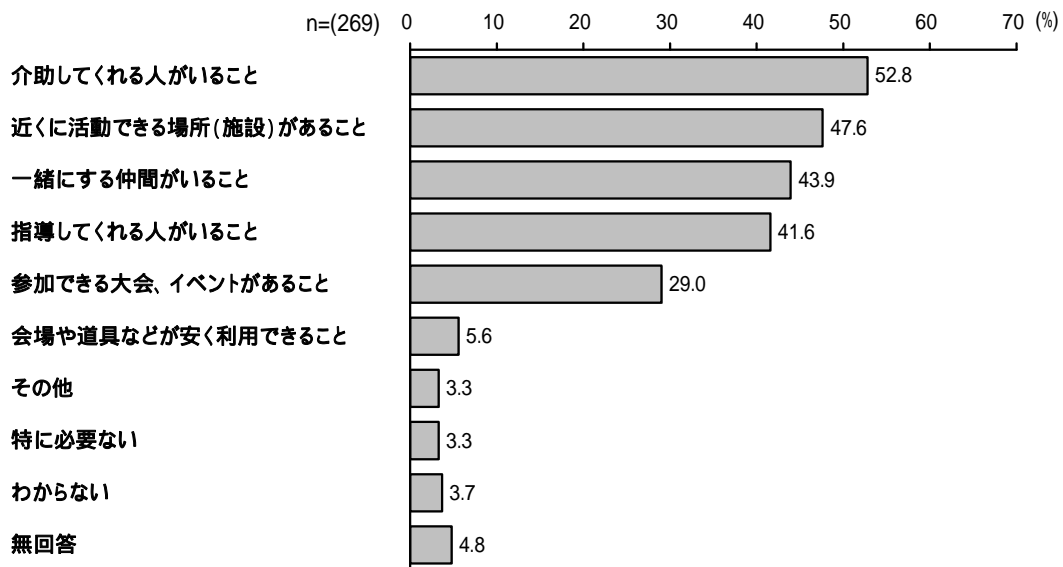
参加したことがある地域行事については、「障害者団体の活動」(36 件)が最も多く、以下「地域のお祭り」(30 件)、「スポーツ・レクリエーション活動」(25 件)、「文化・芸術の活動」(10 件)となっている。

問 28 今後、ご本人に今後参加させたい地域活動は何ですか。(M A)



今後、参加させたい地域活動については、「スポーツ・レクリエーション活動」(42.8%)が最も多く、以下「障害者団体の活動」(37.9%)、「祭り」(26.0%)、「文化・芸術の活動」(20.8%)となっている。

問 29 どのようなことがあれば、ご本人がスポーツや娯楽を楽しむことができますか。
(MA)



スポーツや娯楽をより楽しむために必要なことについては、「介助してくれる人がいること」(52.8%)が最も多く、以下「近くに活動できる場所(施設)があること」(47.6%)、「一緒にする仲間がいること」(43.9%)、「指導してくれる人がいること」(41.6%)、「参加できる大会、イベントがあること」(29.0%)となっている。

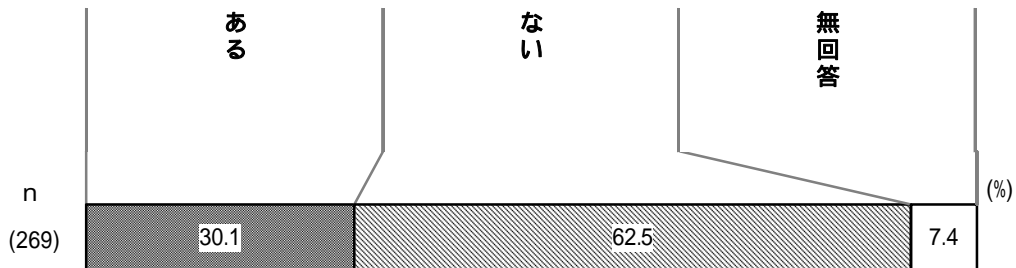
【療育手帳の種類別】

	調査数 (n)	介助してくれる人がいること	(近くに活動できる場所)	と一緒にする仲間がいること	指導してくれる人がいること	参加できる大会、イベント	会場や道具などが安く利用できること	その他	特に必要ない	わからない	無回答
全体	269	142	128	118	112	78	15	9	9	10	13
	100.0	52.8	47.6	43.9	41.6	29.0	5.6	3.3	3.3	3.7	4.8
療育手帳 A	208	127	102	89	78	54	9	9	7	9	8
	100.0	61.1	49.0	42.8	37.5	26.0	4.3	4.3	3.4	4.3	3.8
療育手帳 B	59	14	26	28	33	24	5	0	2	1	5
	100.0	23.7	44.1	47.5	55.9	40.7	8.5	0.0	3.4	1.7	8.5
わからない	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

療育手帳の種類別にみると、療育手帳Aの人は「介助してくれる人がいること」が多く61.1%となっており、療育手帳Bの人は「指導してくれる人がいること」(55.9%)、「参加できる大会、イベントがあること」(40.7%)で療育手帳Aの人を上回っている。

7 健康・医療について

問 30 ご本人は各種訓練やリハビリテーションを受けたことがありますか。(S A)



各種訓練やリハビリテーションを受けたことが「ある」人は30.1%となっており、一方、「ない」人は62.5%を占めている。

問 31 30において「1 ある」を選択した方におたずねします。

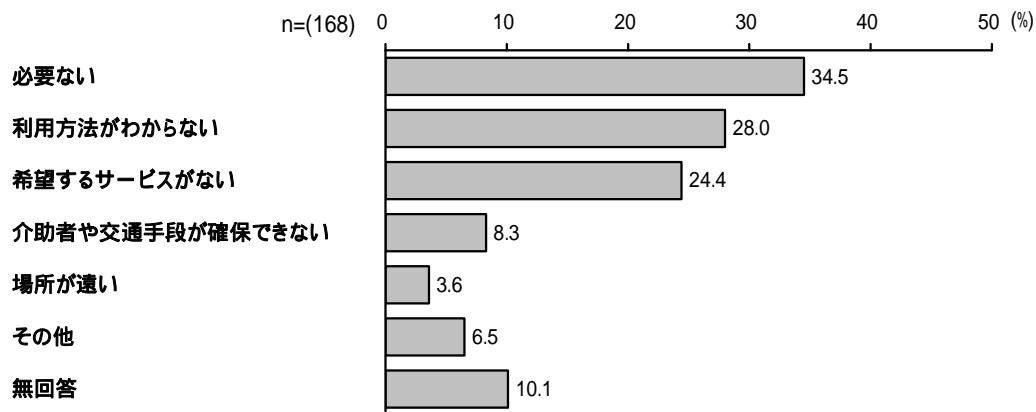
どのような訓練やリハビリを受けましたか。(M A)

(上段 : 件数、下段 : %)

調査数 (n)	歩行や外出	言語 (聴能、発声等) 訓練	物、宿泊、対人などの社会適応)	ソーシャルスキル (買い物、入浴など)	日常生活動作 (食事、入浴など)	スポーツ、レクリエーション	職業訓練	コミュニケーション	学習サポート	パソコン技術訓練	その他	無回答
81	26	25	21	20	16	12	6	6	4	7	2	
100.0	32.1	30.9	25.9	24.7	19.8	14.8	7.4	7.4	4.9	8.6	2.5	

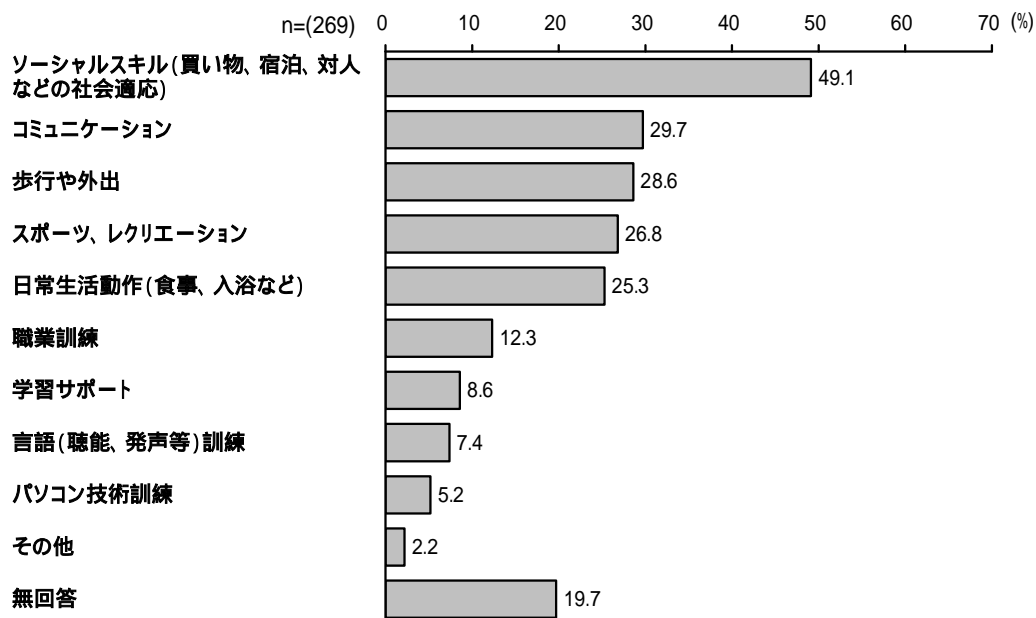
受けたことがある各種訓練やリハビリテーションの内容は、「歩行や外出」(26件)が最も多く、以下「言語 (聴能、発声等) 訓練」(25件)、「ソーシャルスキル (買い物、宿泊、対人などの社会適応)」(21件)、「日常生活動作 (食事、入浴など)」(20件)、「スポーツ、レクリエーション」(16件)となっている。

問 32 30 において「2 ない」を選択した方におたずねします。
 受けたことがない理由は何ですか。(M A)



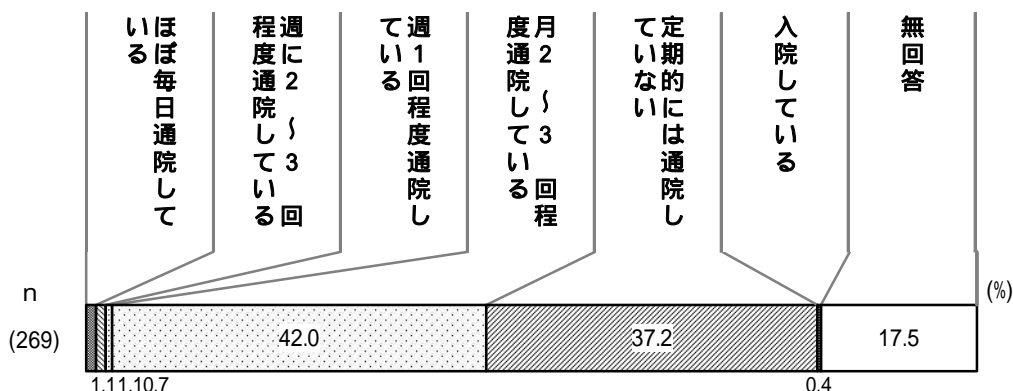
各種訓練・リハビリテーションの未利用の理由については、「必要ない」(34.5%)が最も多く、以下「利用方法がわからない」(28.0%)、「希望するサービスがない」(24.4%)、「介助者や交通手段が確保できない」(8.3%)となっている。

問 33 今後、どのような分野での療育や訓練(リハビリテーション)を望みますか。(M A)



今後、希望する療育や訓練(リハビリテーション)については、「ソーシャルスキル(買い物、宿泊、対人などの社会適応)」(49.1%)が最も多く、以下「コミュニケーション」(29.7%)、「歩行や外出」(28.6%)、「スポーツ、レクリエーション」(26.8%)、「日常生活動作(食事、入浴など)」(25.3%)となっている。

問 34 ご本人は普段、定期的に通院していますか。(S A)

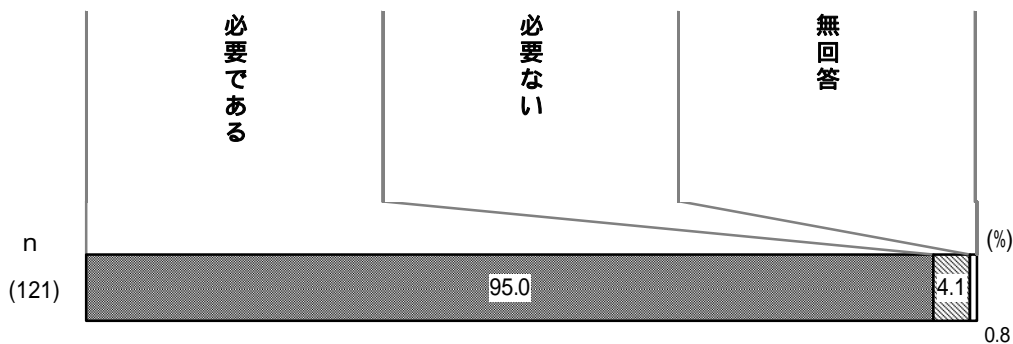


定期的な通院の状況については、「月2~3回程度通院している」人(42.0%)が最も多くなっている。

一方、「定期的には通院していない」人は37.2%となっている。

問 35 34において「1 ほぼ毎日通院している」、「2 週2~3回程度通院している」、「3 週1回程度通院している」、「4 月2~3回程度通院している」のいずれかを選択した方におたずねします。

通院の際に介助は必要ですか。(S A)

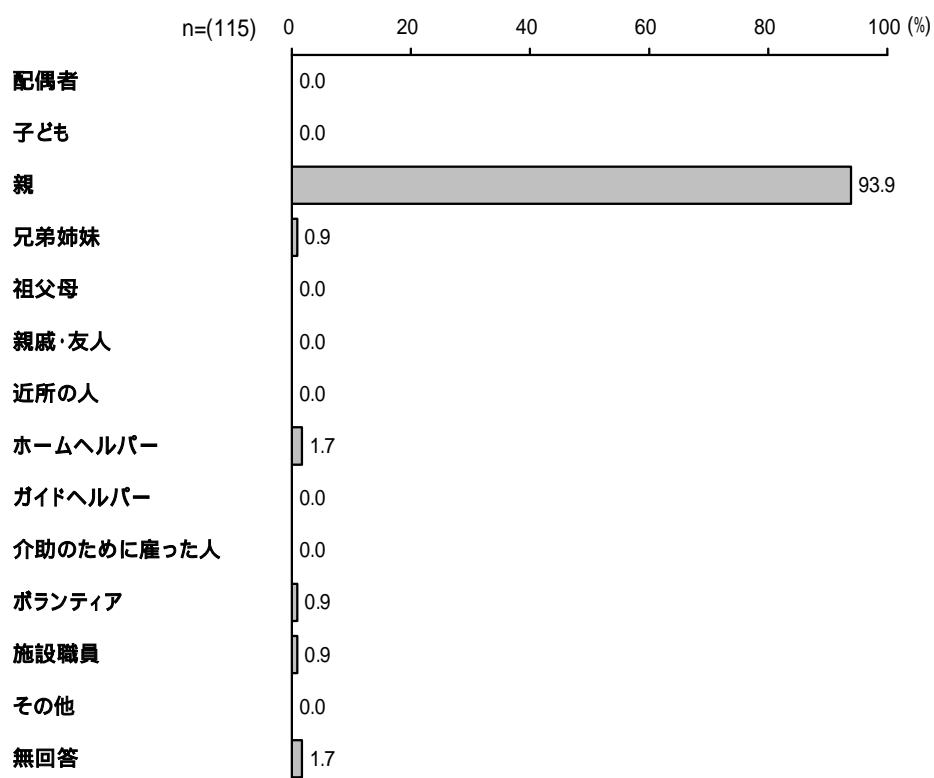


通院時の介助者の有無については、「必要である」人が95.0%を占めている。

一方、「必要ない」人は4.1%である。

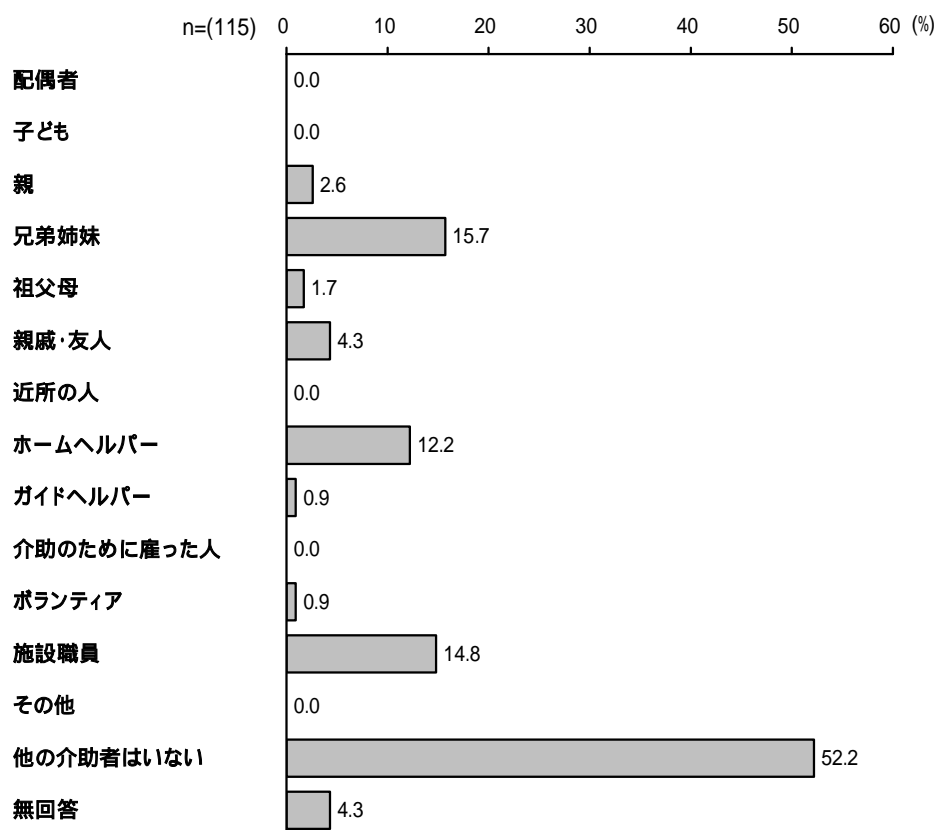
問 36 35 において「1 必要である」を選択した方におたずねします。

(1) 主な介助者は誰ですか。(S A)



通院時の主な介助者が誰かについては、「親」が 93.9% を占めている。

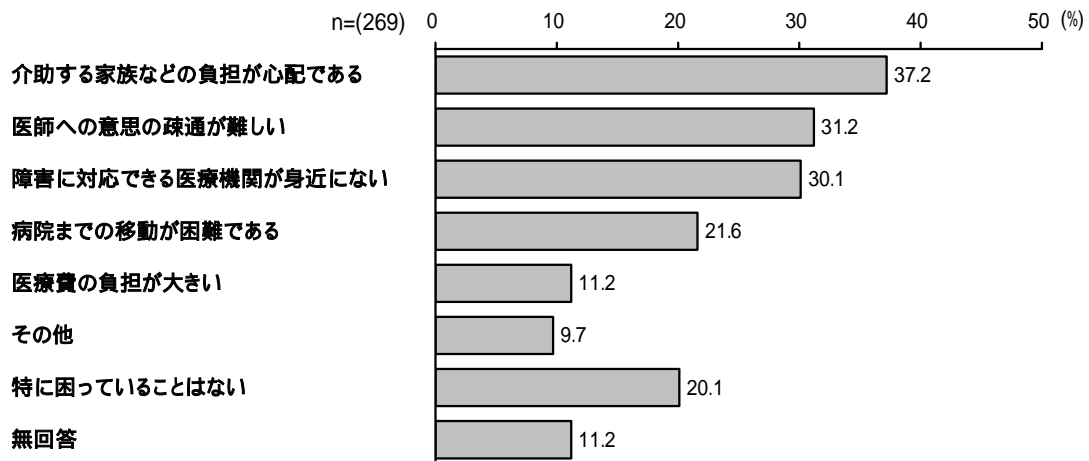
(2)(1) 以外に介助者はいますか。(M A)



通院時の主な介助者以外の介助者については、「兄弟姉妹」(15.7%)、「施設職員」(14.8%)、「ホームヘルパー」(12.2%)が多くなっている。

一方、「他の介助者はいない」人は52.2%を占めている。

問 37 医療機関を利用する際に困っていることはなんですか。(MA)

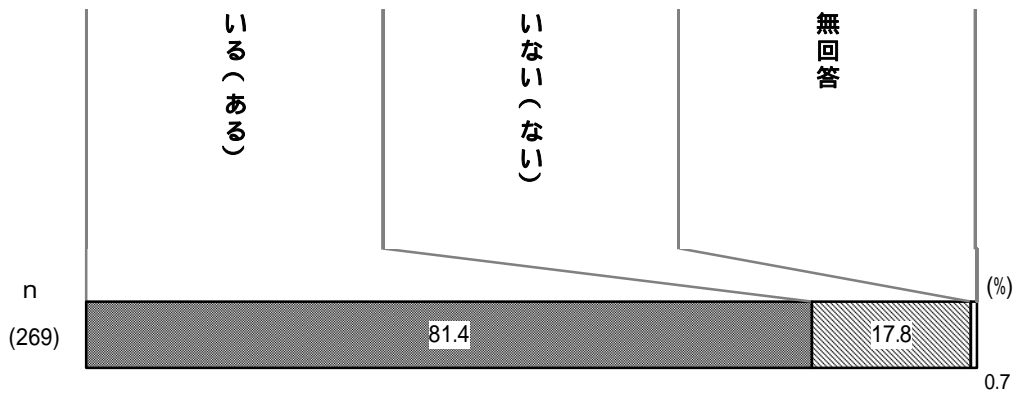


医療機関を利用するの際に困っていることについては、「介助する家族などの負担が心配である」(37.2%)が最も多く、以下「医師への意思の疎通が難しい」(31.2%)、「障害に対応できる医療機関が身近にない」(30.1%)、「病院までの移動が困難である」(21.6%)となっている。

一方、「特に困っていることはない」人は20.1%となっている。

8 福祉サービスについて

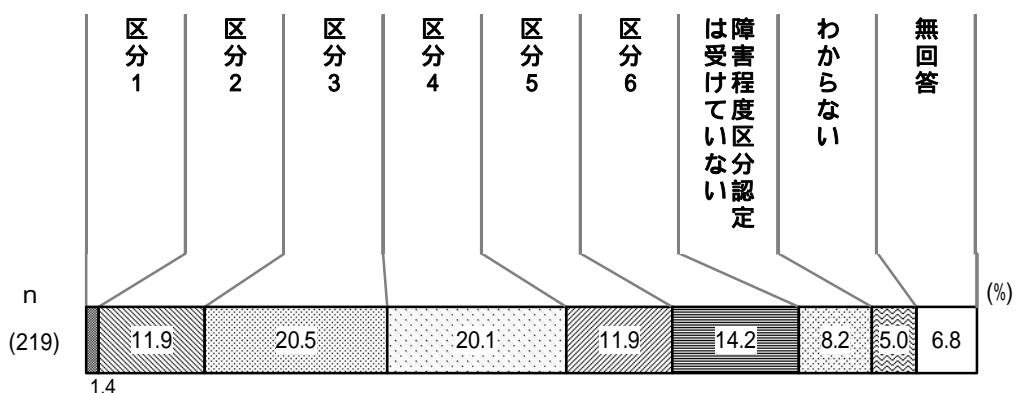
問 38 ご本人は障害者の福祉サービスを利用していますか（したことがありますか）。（S A）



障害者の福祉サービスを利用したことが「ある」人は81.4%を占めている。
一方、利用したことが「ない」人は17.8%となっている。

問 39 38において「1 いる（ある）」を選択した方におたずねします。

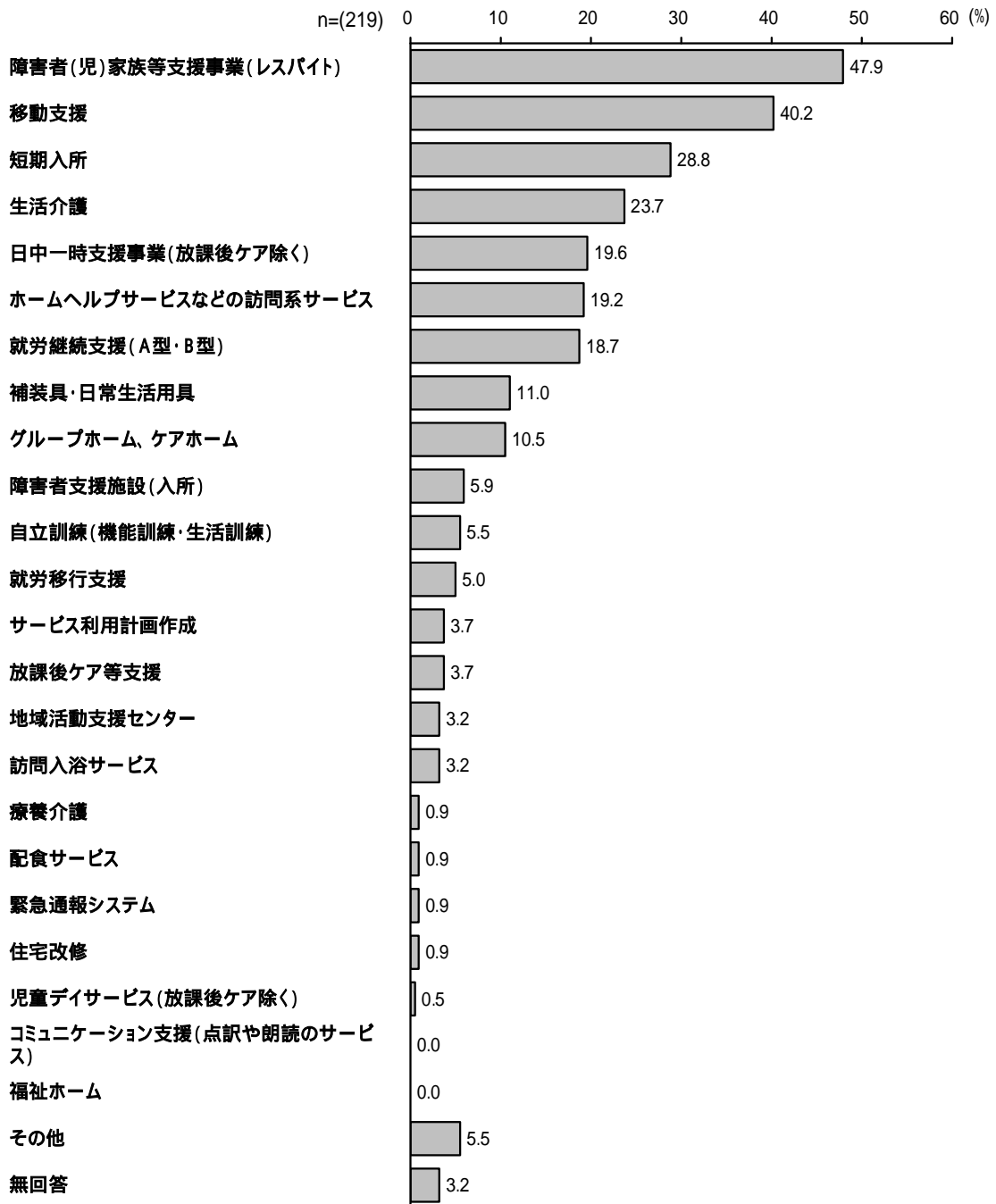
（1）ご本人はサービスを利用するための、障害程度区分認定を受けていますか。（S A）



サービスを利用するための障害程度認定区分の有無については、「区分 3」（20.5%）、「区分 4」（20.1%）が多く、以下「区分 6」（14.2%）、「区分 2」、「区分 5」（ともに11.9%）、「区分 1」（1.4%）となっている。

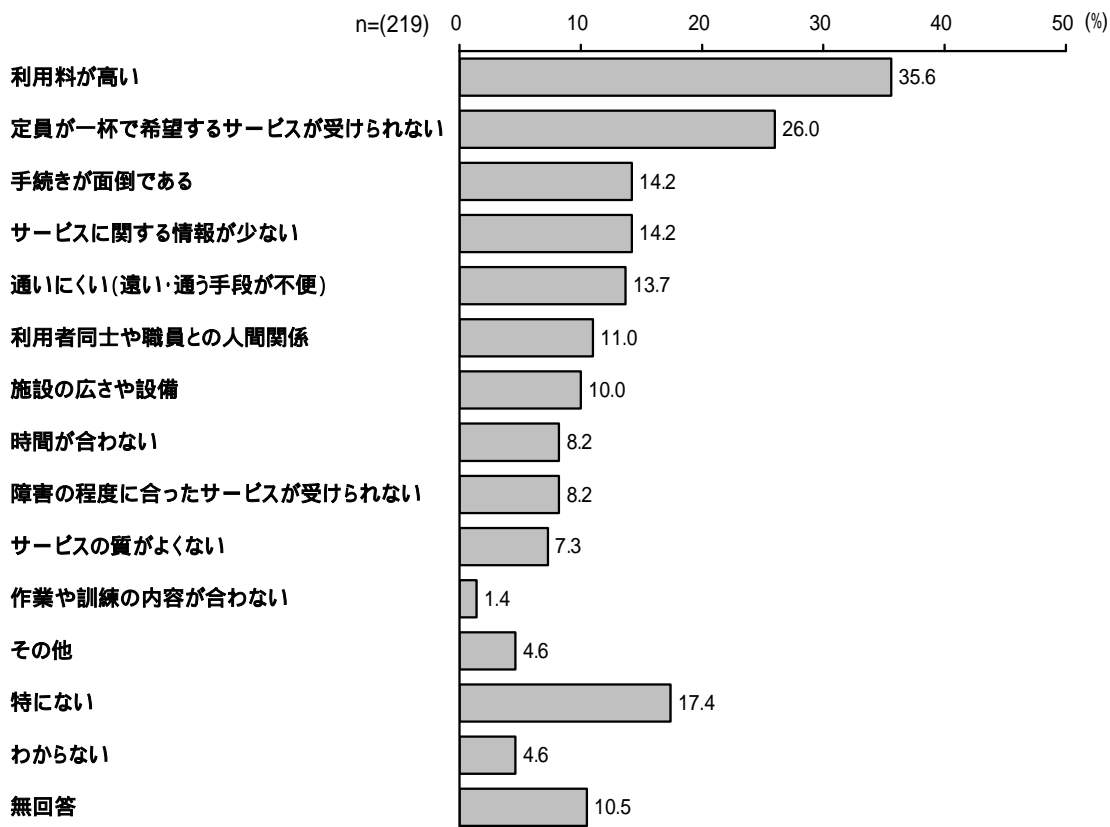
一方、「障害程度区分認定は受けていない」人は8.2%、「わからない」人は5.0%となっている。

(2) どのような福祉サービスを利用していますか(したことがありますか)。(MA)



利用している福祉サービスについては、「障害者(児)家族等支援事業(レスパイト)」(47.9%)が最も多く、以下「移動支援」(40.2%)、「短期入所」(28.8%)、「生活介護」(23.7%)、「日中一時支援事業(放課後ケア除く)」(19.6%)、「ホームヘルプサービスなどの訪問系サービス」(19.2%)、「就労継続支援(A型・B型)」(18.7%)となっている。

(3) 福祉サービスを利用するにあたって不自由している(した)ことは何ですか。(MA)



福祉サービスを利用するにあたって不自由していることについては、「利用料が高い」(35.6%)が最も多く、以下「定員が一杯で希望するサービスが受けられない」(26.0%)、「手続きが面倒である」、「サービスに関する情報が少ない」(ともに14.2%)、「通いにくい(遠い・通う手段が不便)」(13.7%)となっている。

一方、「特にない」は17.4%となっている。

問 40 38 において「2 いない(ない)」を選択した方におたずねします。

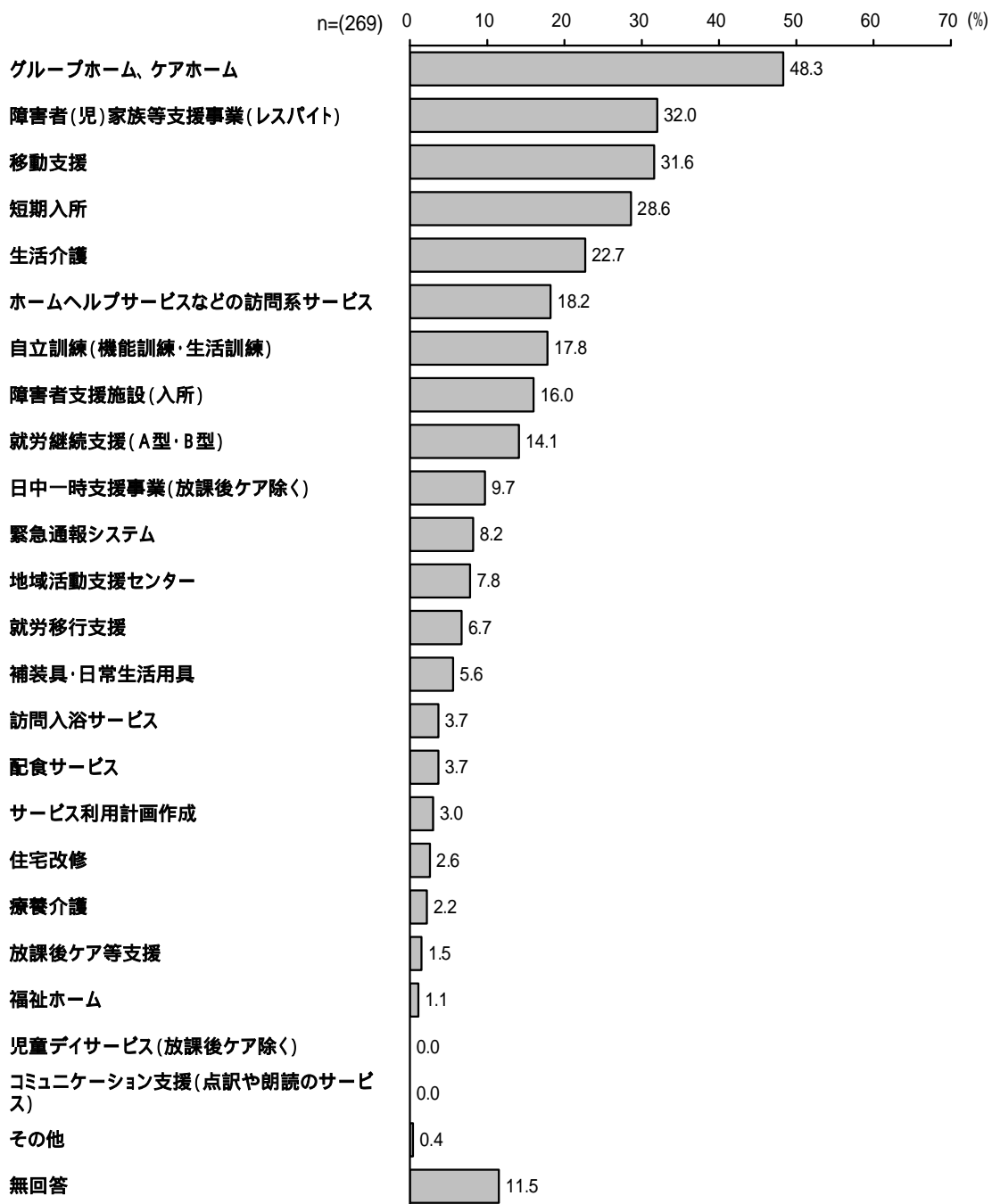
理由は何ですか。(S A)

(上段：件数、下段：%)

調査数 (n)	必要ない	利用料が高い	メニューがない	場所が遠い	定員がいっぱい で入れない	何が利用できるかわからない	その他	無回答
48	11	5	0	0	0	17	5	10
100.0	22.9	10.4	0.0	0.0	0.0	35.4	10.4	20.8

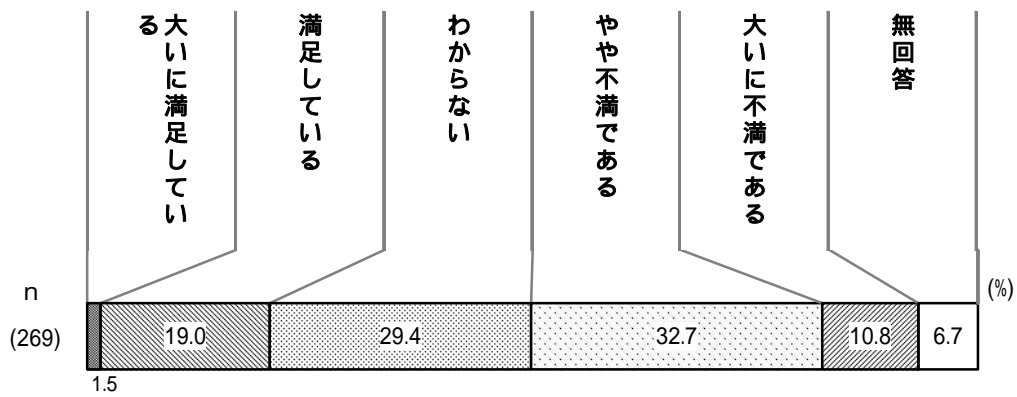
福祉サービスを利用していない理由については、「何が利用できるかわからない」(17件)が最も多く、以下「必要ない」(11件)、「利用料が高い」(5件)となっている。

問 41 今後、ご本人に利用してほしいと思う福祉サービスは何ですか。(M A)



今後、利用してほしい福祉サービスについては、「グループホーム、ケアホーム」(48.3%)が最も多く、以下「障害者(児)家族等支援事業(レスパイト)」(32.0%)、「移動支援」(31.6%)、「短期入所」(28.6%)、「生活介護」(22.7%)、「ホームヘルプサービスなどの訪問系サービス」(18.2%)、「自立訓練(機能訓練・生活訓練)」(17.8%)、「障害者支援施設(入所)」(16.0%)となっている。

問 42 現在、あなたは仙台市にある障害者の福祉サービスに満足していますか。(S A)



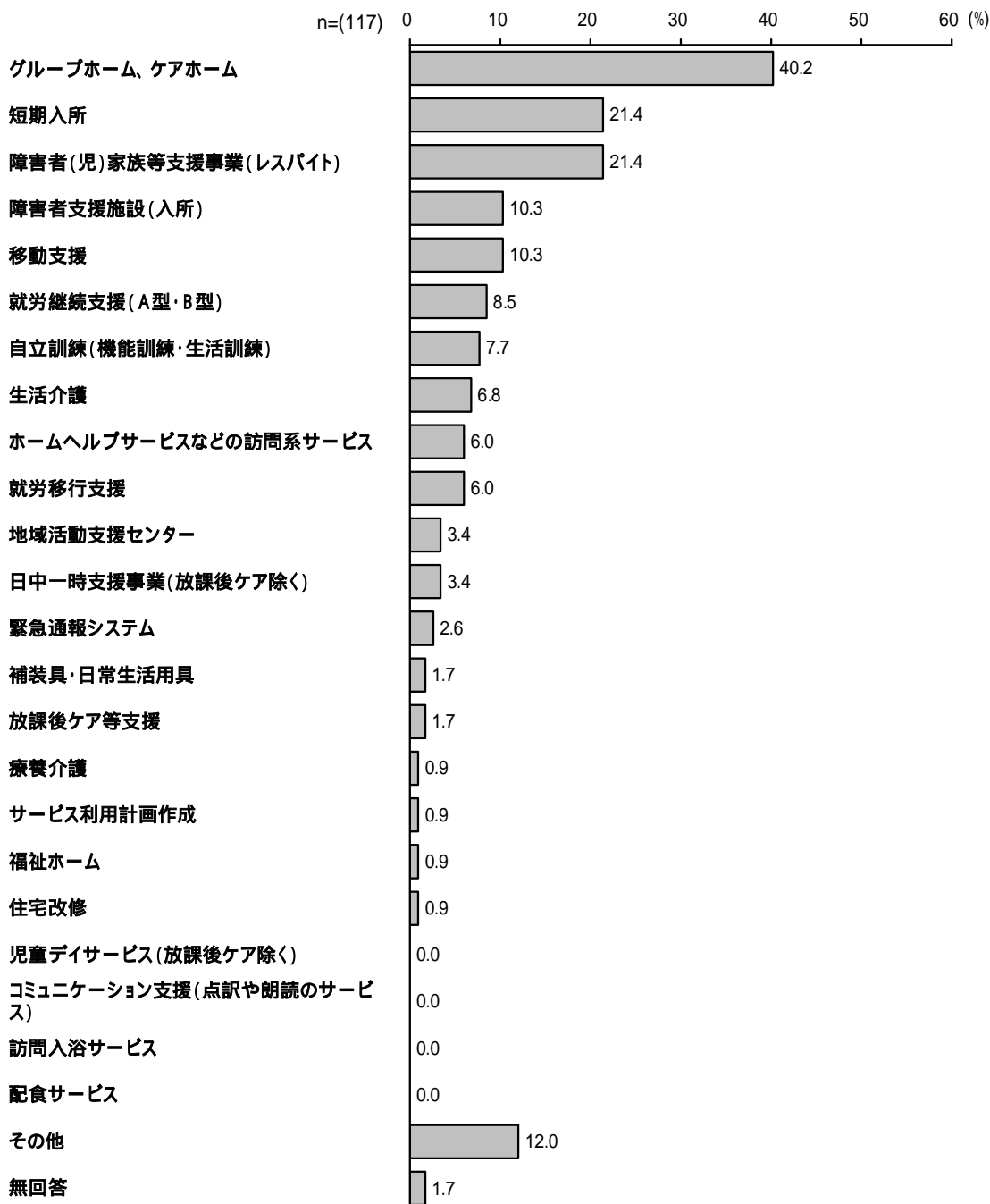
障害者の福祉サービスの満足度については、「大いに満足している」(1.5%)、「満足している」(19.0%)を合わせた《満足している》人は20.5%となっている。

一方、「やや不満である」(32.7%)、「大いに不満である」(10.8%)を合わせた《不満である》人は43.6%となっている。

一方、「わからない」は29.4%となっている。

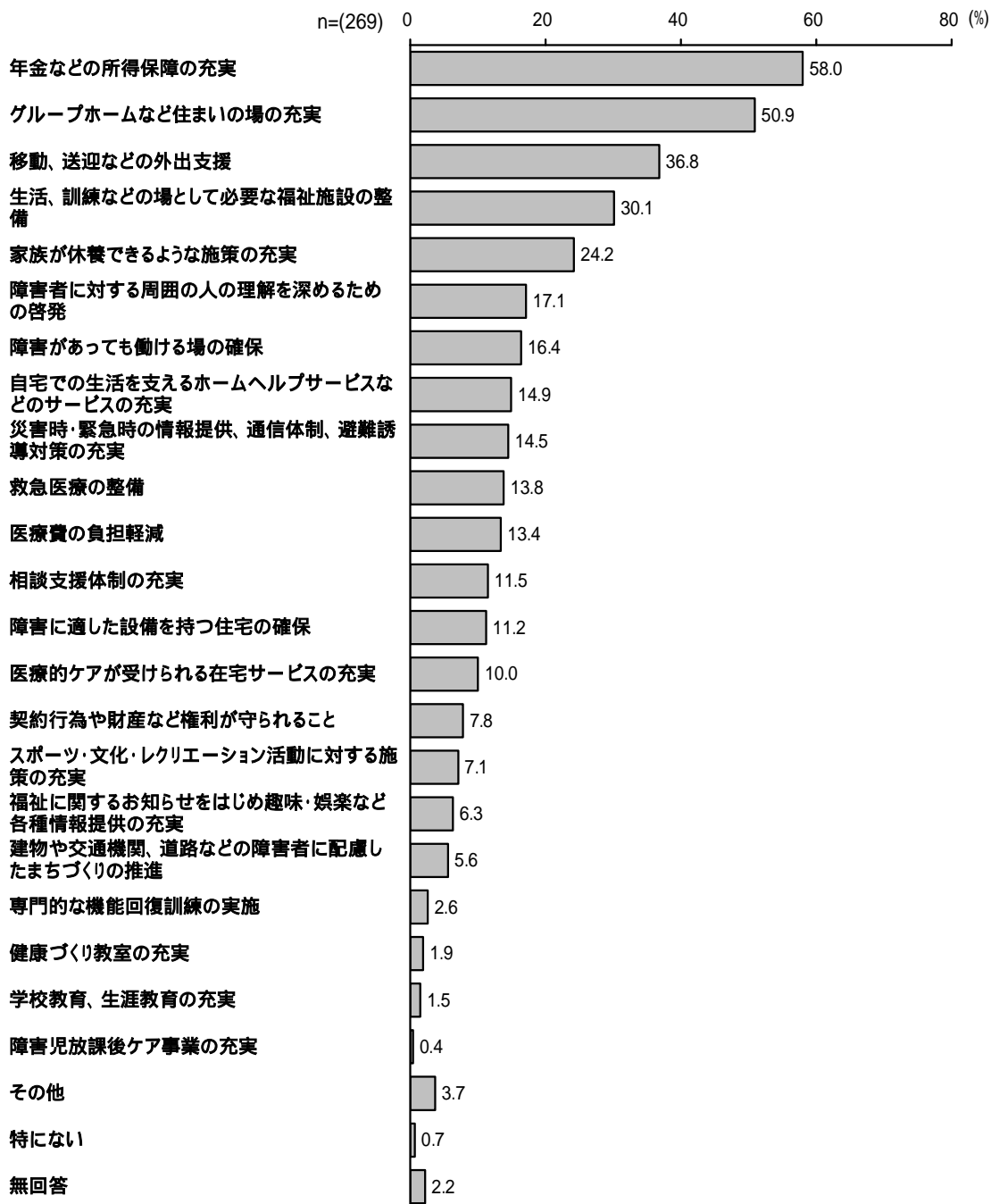
問 43 42 において「4 やや不満である」または「5 大いに不満である」を選択した方におたずねします。

特にどのような福祉サービスに不満を感じていますか。(M A)



特に不満を感じる福祉サービスについては、「グループホーム、ケアホーム」(40.2%)が最も多く、以下「短期入所」、「障害者(児)家族等支援事業(レスパイト)」(ともに21.4%)、「障害者支援施設(入所)」、「移動支援」(ともに10.3%)となっている。

問 44 あなたが今後充実してほしい施策は何ですか。(M A)



今後、充実してほしい施策については、「年金などの所得保障の充実」(58.0%)が最も多く、以下「グループホームなど住まいの場の充実」(50.9%)、「移動、送迎などの外出支援」(36.8%)、「生活、訓練などの場として必要な福祉施設の整備」(30.1%)、「家族が休養できるような施設の充実」(24.2%)となっている。

【療育手帳の種類別】

上段：件数 下段：%	調査数（n）	年金などの所得保障の充実	住まいの場の充実	移動、送迎などの外出支援	生活、訓練などの場として必要な福祉施設の整備	家族が休養できるような施設の充実	障害者に対する周囲の人の理解を深めるための啓発	障害があっても働ける場の確保	自宅での生活を支えるホームヘルプサービスの充実	災害時・緊急時の情報提供、通信体制、避難誘導対策の充実	救急医療の整備	医療費の負担軽減	相談支援体制の充実
全体	269 100.0	156 58.0	137 50.9	99 36.8	81 30.1	65 24.2	46 17.1	44 16.4	40 14.9	39 14.5	37 13.8	36 13.4	31 11.5
療育手帳A	208 100.0	114 54.8	106 51.0	86 41.3	68 32.7	60 28.8	32 15.4	18 8.7	31 14.9	34 16.3	34 16.3	25 12.0	21 10.1
療育手帳B	59 100.0	42 71.2	30 50.8	13 22.0	12 20.3	5 8.5	14 23.7	26 44.1	8 13.6	5 8.5	3 5.1	11 18.6	10 16.9
わからない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

上段：件数 下段：%	障害者に適した設備を持つ住宅の確保	在宅的ケアが受けられる医療的サービスの充実	契約行為や財産など権利の確保	スポーツ・文化・レクリエーション活動に対する支援	福祉に関する情報提供・楽しませる機会	建物や交通機関の整備	専門的な機能回復訓練の実施	健康づくり教室の充実	学校教育、生涯教育の充実	障害児放課後ケア事業の充実	その他	特になし	無回答
全体	30 11.2	27 10.0	21 7.8	19 7.1	17 6.3	15 5.6	7 2.6	5 1.9	4 1.5	1 0.4	10 3.7	2 0.7	6 2.2
療育手帳A	25 12.0	23 11.1	17 8.2	12 5.8	11 5.3	13 6.3	6 2.9	3 1.4	3 1.4	1 0.5	7 3.4	2 1.0	5 2.4
療育手帳B	4 6.8	4 6.8	4 6.8	7 11.9	6 10.2	1 1.7	1 1.7	2 3.4	1 1.7	0 0.0	3 5.1	0 0.0	1 1.7
わからない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

療育手帳の種類別にみると、療育手帳Aの人は「移動、送迎などの外出支援」、「生活、訓練などの場として必要な福祉施設の整備」、「家族が休養できるような施設の充実」が療育手帳Bの人に比べ多くなっている。療育手帳Bの人は「年金などの所得保障の充実」、「障害者に対する周囲の人の理解を深めるための啓発」、「障害があっても働ける場の確保」で療育手帳Aの人を上回っている。

【家庭の収入状況別】

調査数 (n)	年金などの所得保障の充実	グループホームなどの住まいの場の充実	移動、送迎などの外出支援	生活訓練などの福祉施設の整備	家族が休養できるような施策の充実	障害者に対する周囲の人の理解を深めるための啓発	障害があつても働ける場の確保	在宅での生活を支えるためのヘルプサービスの充実	災害時・緊急時の情報提供・通信体制の構築	救急医療の整備	医療費の負担軽減	相談支援体制の充実	
全体	269 100.0	156 58.0	137 50.9	99 36.8	81 30.1	65 24.2	46 17.1	44 16.4	40 14.9	39 14.5	37 13.8	36 13.4	31 11.5
ご本人の就労による収入	21 100.0	8 38.1	15 71.4	7 33.3	6 28.6	3 14.3	3 14.3	4 19.0	5 23.8	5 23.8	3 14.3	1 4.8	2 9.5
ご本人の年金による収入	131 100.0	75 57.3	67 51.1	53 40.5	41 31.3	34 26.0	22 16.8	18 13.7	21 16.0	22 16.8	19 14.5	15 11.5	13 9.9
あなたの就労による収入	46 100.0	25 54.3	22 47.8	19 41.3	15 32.6	12 26.1	9 19.6	10 21.7	10 21.7	5 10.9	7 15.2	6 13.0	3 6.5
あなたの年金による収入	60 100.0	41 68.3	32 53.3	24 40.0	16 26.7	12 20.0	14 23.3	8 13.3	8 13.3	10 16.7	10 16.7	8 13.3	9 15.0
あなた以外の家族の就労による収入	123 100.0	75 61.0	67 54.5	46 37.4	39 31.7	35 28.5	22 17.9	17 13.8	23 18.7	16 13.0	19 15.4	18 14.6	15 12.2
あなた以外の家族の年金による収入	95 100.0	56 58.9	44 46.3	34 35.8	20 21.1	22 23.2	18 18.9	18 18.9	12 12.6	18 18.9	15 15.8	10 10.5	16 16.8
生活保護	4 100.0	2 50.0	2 50.0	2 50.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0
その他	3 100.0	1 33.3	3 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0

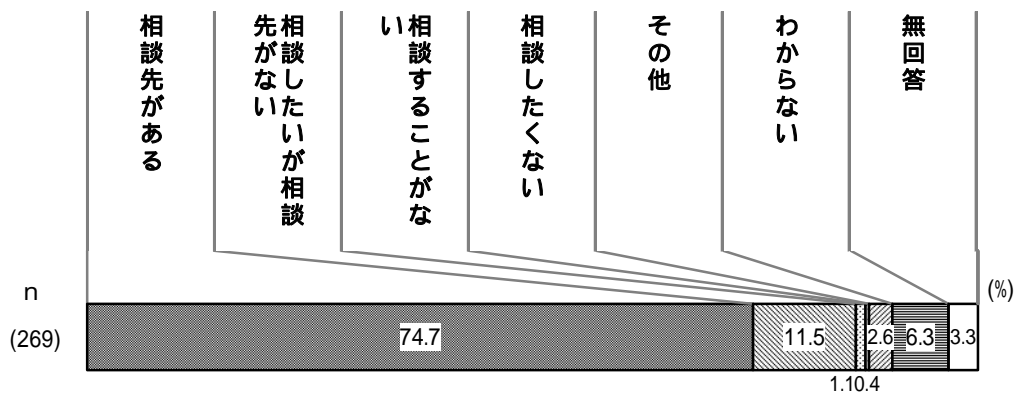
調査数 (n)	障害に適切な設備を持つ住宅の確保	医療的ケアが受けられる在宅サービスの充実	契約行為や財産など権利の確保	ピアサポート・活動に対する施策の充実	生活情報提供・娯楽など各種の充実	福祉に関するお知ろなせ	たまたまの交通機関の推進	建物や交通機関、道路の整備	専門的な機能回復訓練の実施	健康づくり教室の充実	学校教育、生涯教育の充実	障害児放課後ケア事業の充実	その他	特になし	無回答
全体	30 11.2	27 10.0	21 7.8	19 7.1	17 6.3	15 5.6	7 2.6	5 1.9	4 1.5	1 0.4	10 3.7	2 0.7	2 0.7	6 2.2	
ご本人の就労による収入	2 9.5	2 9.5	1 4.8	6 28.6	3 14.3	1 4.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
ご本人の年金による収入	13 9.9	12 9.2	11 8.4	12 9.2	11 8.4	5 3.8	1 0.8	2 1.5	3 2.3	0 0.0	3 2.3	2 1.5	2 1.5	2 1.5	
あなたの就労による収入	4 8.7	3 6.5	5 10.9	4 8.7	5 10.9	0 0.0	2 4.3	1 2.2	0 0.0	0 0.0	0 0.0	4 8.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
あなたの年金による収入	11 18.3	5 8.3	5 8.3	5 8.3	3 5.0	3 5.0	1 1.7	1 1.7	2 3.3	0 0.0	1 1.7	1 1.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
あなた以外の家族の就労による収入	12 9.8	9 7.3	10 8.1	7 5.7	8 6.5	8 6.5	2 1.6	0 0.0	1 0.8	1 0.8	4 3.3	0 0.0	1 0.8	1 0.8	1 0.8
あなた以外の家族の年金による収入	10 10.5	8 8.4	6 6.3	7 7.4	6 6.3	4 4.2	3 3.2	4 4.2	2 2.1	0 0.0	3 3.2	2 2.1	2 2.1	1 1.1	1 1.1
生活保護	2 50.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
その他	1 33.3	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

家庭の収入状況別にみると、「移動、送迎などの外出支援」ではご本人の年金による収入、あなたの就労による収入、あなたの年金による収入で約4割と他よりやや多く、また、あなたの年金による収入では「年金などの所得保障の充実」、「障害者に対する周囲の人の理解を深めるための啓発」でもやや多くなっている。あなた以外の家族の年金による収入では、「家族が休養できるような施策の充実」がやや多くなっている。

9 相談機能について

問 45 あなたがご本人のことで困ったときの相談について次のうちあてはまるのは何ですか。

(S A)

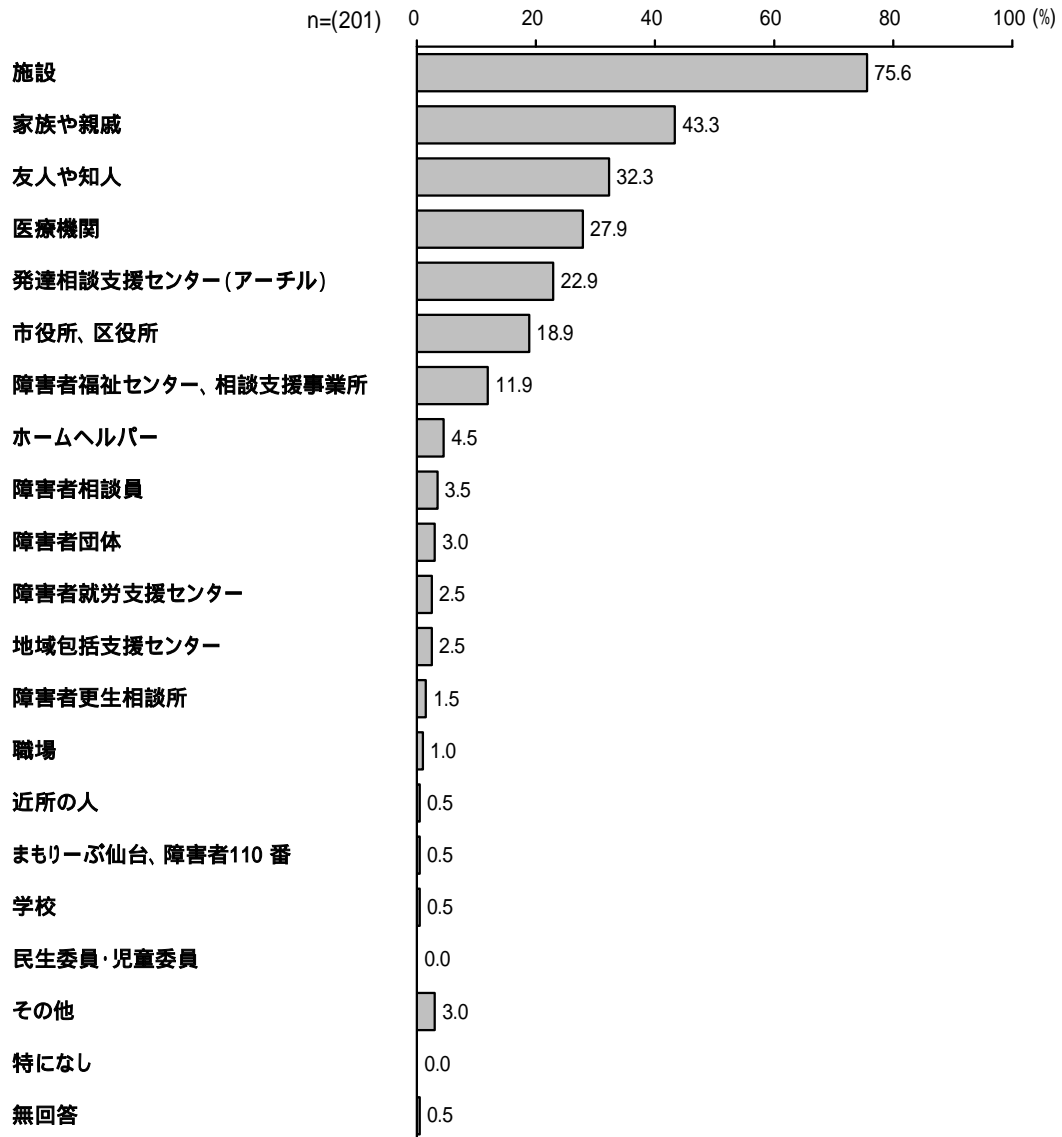


困ったときの相談先の有無については、「相談先がある」人が74.7%を占めている。

一方、「相談したいが相談するところがない」人は11.5%となっている。

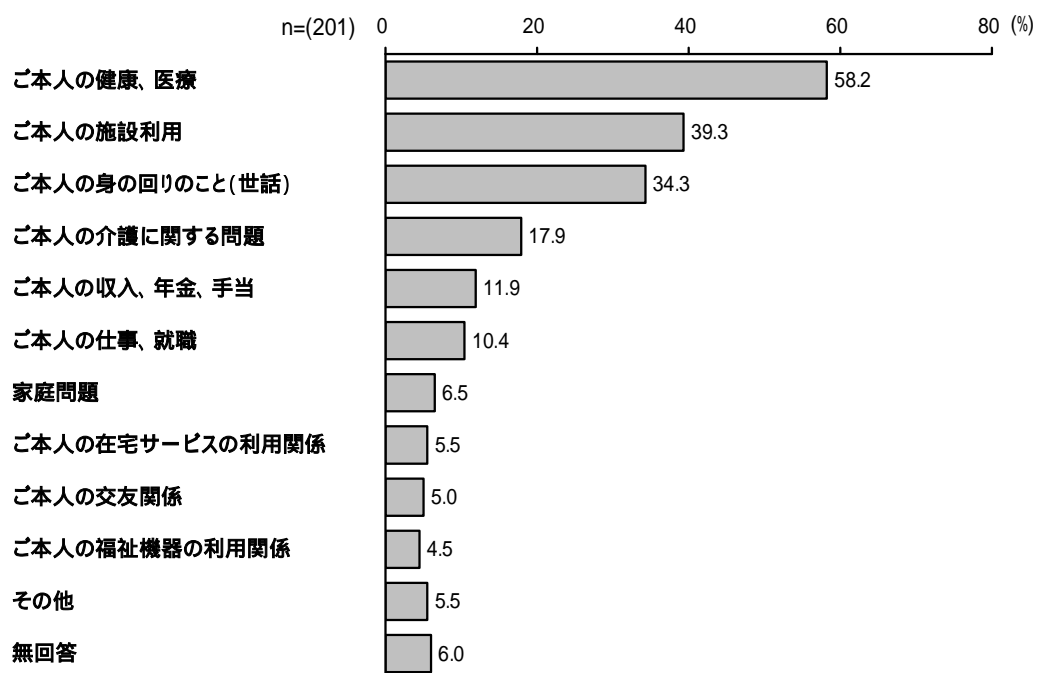
問 46 45 において「1 相談先がある」を選択した方におたずねします。

(1) 相談相手はどなたですか。(M A)



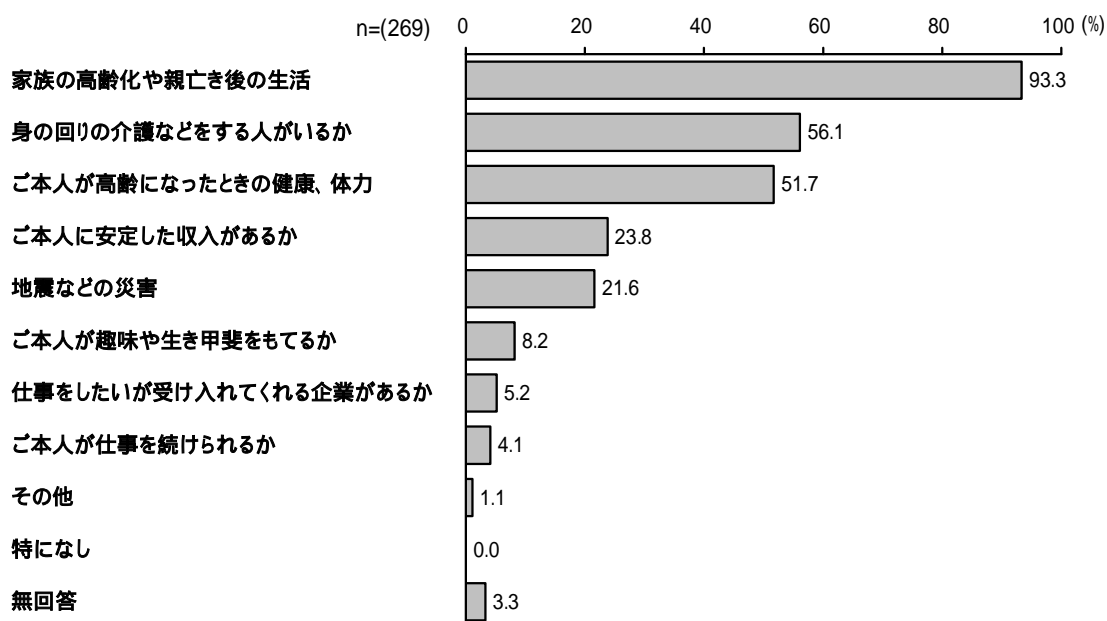
困ったときの相談相手については、「施設」が 75.6% を占めており、以下「家族や親戚」(43.3%)、「友人や知人」(32.3%)、「医療機関」(27.9%)、「発達相談支援センター(アーチル)」(22.9%)、「市役所、区役所」(18.9%) となっている。

(2) 相談していること(したいこと)は何ですか。(MA)



相談している内容については、「ご本人の健康、医療」(58.2%)が最も多く、以下「ご本人の施設利用」(39.3%)、「ご本人の身の回りのこと(世話)」(34.3%)、「ご本人の介護に関する問題」(17.9%)となっている。

問 47 あなたがご本人の今後のことで不安と感じていることは何ですか。(M A)



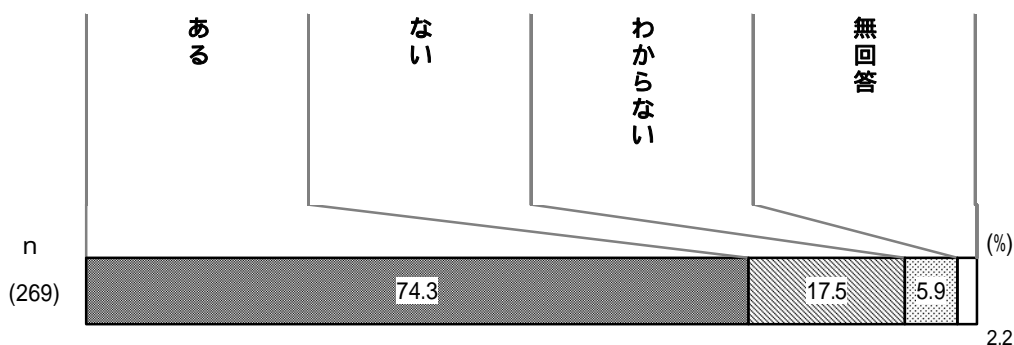
今後のことで不安と感じていることについては、「家族の高齢化や親亡き後の生活」が 93.3%を占めており、以下「身の回りの介護などをする人がいるか」(56.1%)、「ご本人が高齢になったときの健康、体力」(51.7%)となっている。

【年齢別】

上段：件数 下段：%	調査数（n）	家族の高齢化や親亡き後の生活	身の回りの介護などをする人がいるか	ご本人が高齢になったときの健康、体力	ご本人に安定した収入があるか	地震などの災害	ご本人が趣味や生き甲斐をもてるか	仕事をしたいが受け入れてくれる企業があるか	ご本人が仕事を続けられるか	その他	特になし	無回答
全体	269 100.0	251 93.3	151 56.1	139 51.7	64 23.8	58 21.6	22 8.2	14 5.2	11 4.1	3 1.1	0 0.0	9 3.3
17歳以下	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18～29歳	26 100.0	24 92.3	15 57.7	7 26.9	12 46.2	6 23.1	2 7.7	1 3.8	0 0.0	1 3.8	0 0.0	1 3.8
30～39歳	37 100.0	35 94.6	16 43.2	17 45.9	9 24.3	8 21.6	4 10.8	3 8.1	3 8.1	0 0.0	0 0.0	1 2.7
40～49歳	28 100.0	24 85.7	10 35.7	13 46.4	6 21.4	3 10.7	8 28.6	2 7.1	1 3.6	0 0.0	0 0.0	3 10.7
50～64歳	122 100.0	115 94.3	78 63.9	67 54.9	27 22.1	29 23.8	6 4.9	5 4.1	2 1.6	2 1.6	0 0.0	2 1.6
65～74歳	38 100.0	38 100.0	22 57.9	22 57.9	8 21.1	9 23.7	2 5.3	3 7.9	3 7.9	0 0.0	0 0.0	0 0.0
75歳以上	8 100.0	8 100.0	7 87.5	6 75.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

年齢別にみると、年齢が高くなるにしたがって「ご本人が高齢になったときの健康、体力」は多くなり、50歳以上では半数以上となっている。また、50～64歳では、「身の回りの介護などをする人がいるか」が63.9%とやや多くなっている。

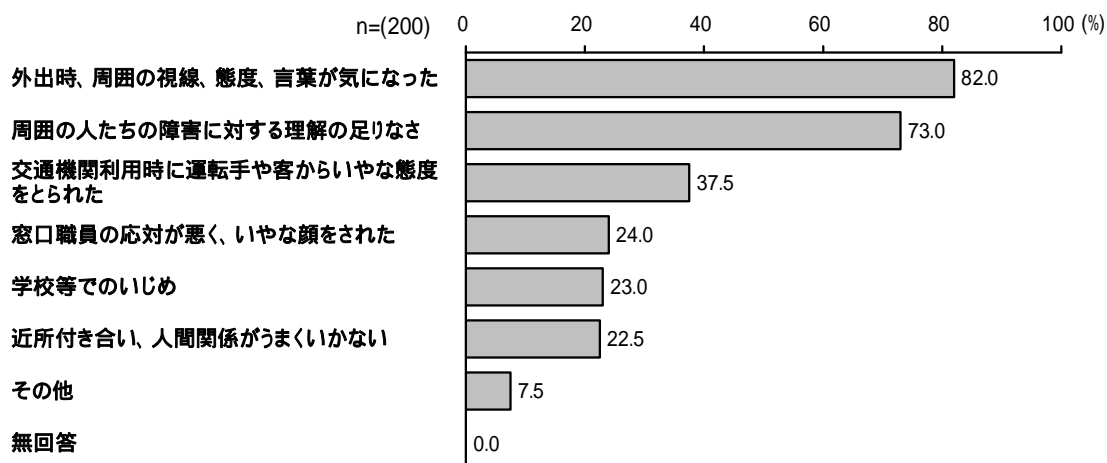
問 48 あなたはご本人が障害者ということで差別を受けたり、いやな思いなどをしたことがありますか。(S A)



障害を理由に差別やいやな思いを受けたことが「ある」人は74.3%を占めている。一方、「ない」人は17.5%となっている。なお、「わからない」人は5.9%である。

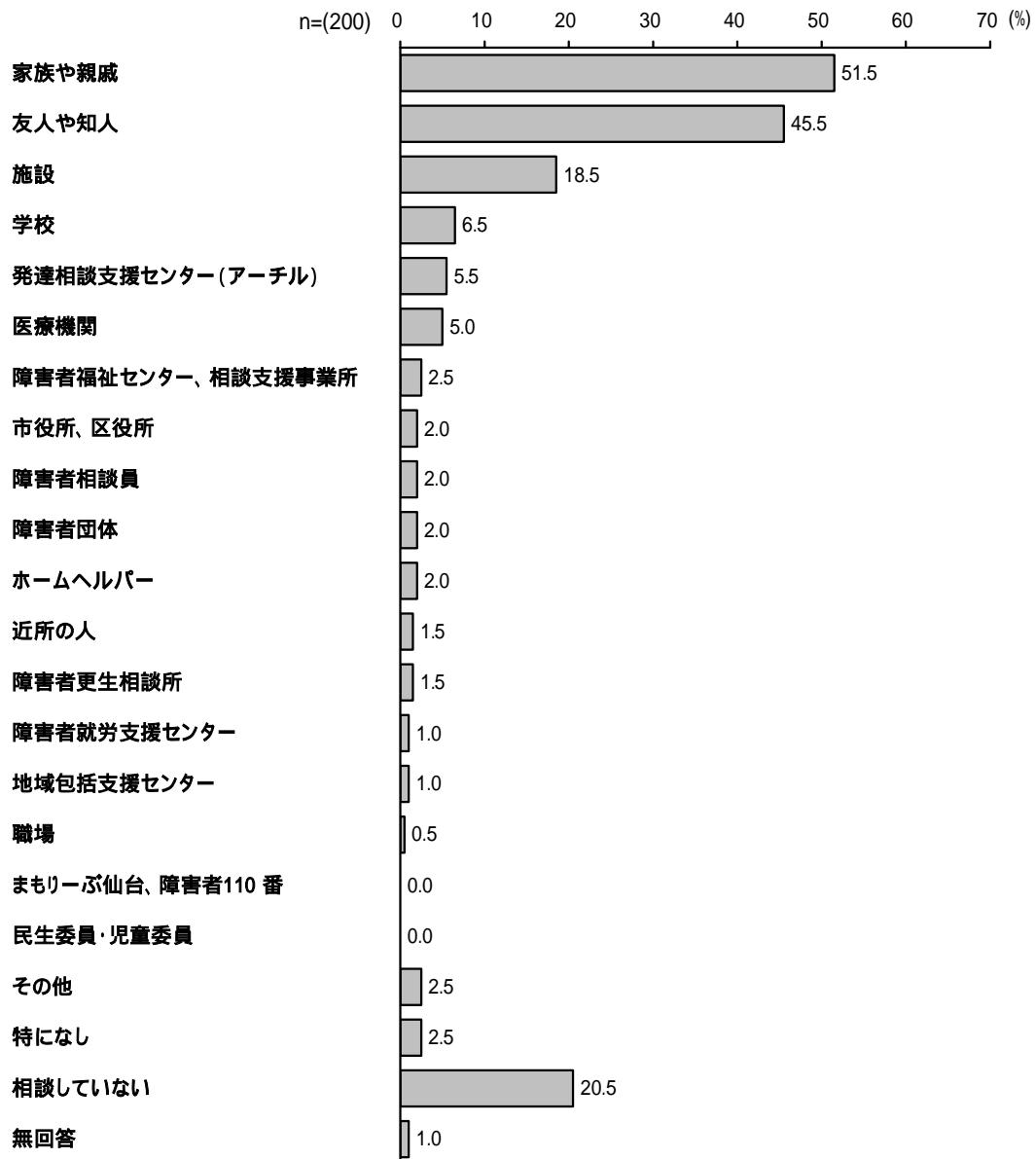
問 49 48において「1 ある」を選択した方におたずねします。

(1) あなたは、どのような内容の差別を受けたり、いやな思いをしましたか。(M A)



差別やいやな思いを受けた内容については、「外出時、周囲の視線、態度、言葉が気になった」(82.0%)、「周囲の人たちの障害に対する理解の足りなさ」(73.0%)が多く、以下「交通機関利用時に運転手や客からいやな態度をとられた」(37.5%)となっている。

(2) 差別を受けたり、いやな思いを受けたときに誰かに相談しましたか。(MA)



差別やいやな思いを受けたときの相談先については、「家族や親戚」(51.5%)が最も多く、以下「友人や知人」(45.5%)、「施設」(18.5%)となっている。

一方、「相談していない」人は20.5%となっている。

(3)(2)で「21 相談しない」を選択した方におたずねします。

相談しない理由は何ですか。(S A)

(上段：件数、下段：%)

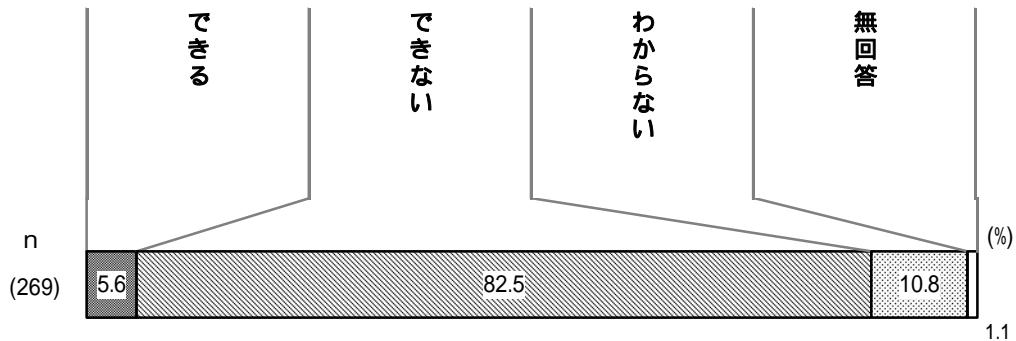
調査数 (n)	い相談 したいが 相談先が な	相談 したくない	その 他	わ から ない	無 回 答
41	8	5	18	7	3
100.0	19.5	12.2	43.9	17.1	7.3

差別やいやな思いを相談しない理由については、「相談したいが相談先がない」(8件)「相談したくない」(5件)となっている。

なお、「その他」の内容としては、「相談しても仕方ない」などがあげられている。

10 災害対策について

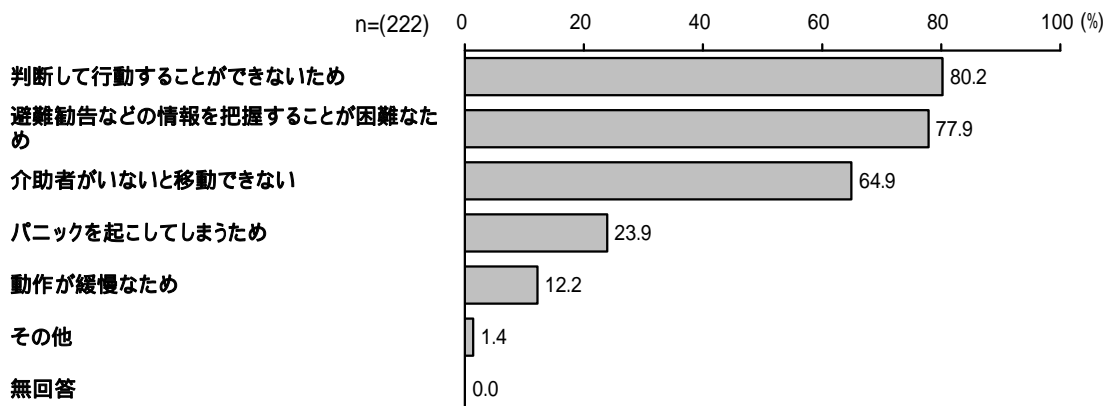
問 50 ご本人は地震などの災害発生時、一人で避難することができますか。(S A)



地震などの災害発生時、一人で避難することの可否については、一人で避難することが「できる」人は5.6%にとどまっております、一方、一人で避難することが「できない」人が82.5%を占めています。

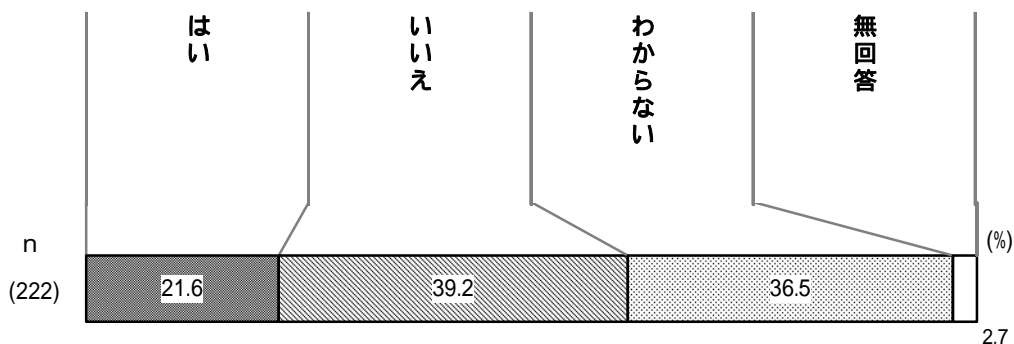
問 51 50において「2 できない」を選択した方におたずねします。

(1) 災害のとき一人で避難することができない理由は何ですか。(M A)



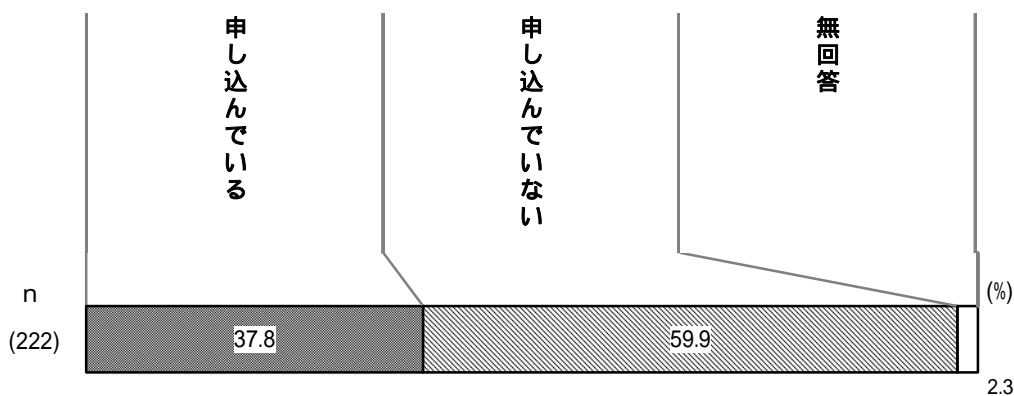
災害のとき一人で避難できない理由については、「判断して行動することができないため」(80.2%)、「避難勧告などの情報を把握することが困難なため」(77.9%)が多く、以下「介助者がいないと移動できない」(64.9%)、「パニックを起こしてしまうため」(23.9%)となっている。

(2) ご本人はお住まいの地区の避難場所を知っていますか。(S A)



居住区における避難場所を知っている人は21.6%となっている。
一方、知らない人は39.2%となっており、「わからない」人は36.5%いる。

(3) ご本人は仙台市が実施している災害時における要援護者情報登録制度を申し込んでいますか。(S A)



災害時における要援護者情報登録制度を「申し込んでいる」人は37.8%となっている。
一方、「申し込んでいない」人は59.9%を占めている。

【年齢別】

上段：件数 下段：%	調査数 (n)	申し込んでいる	申し込んでいない	無回答
全体	222 100.0	84 37.8	133 59.9	5 2.3
17歳以下	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
18～29歳	23 100.0	10 43.5	13 56.5	0 0.0
30～39歳	28 100.0	8 28.6	18 64.3	2 7.1
40～49歳	25 100.0	8 32.0	16 64.0	1 4.0
50～64歳	104 100.0	37 35.6	66 63.5	1 1.0
65～74歳	27 100.0	14 51.9	13 48.1	0 0.0
75歳以上	7 100.0	3 42.9	3 42.9	1 14.3

年齢別にみると、年齢がおおむね低くなるにしたがって「申し込んでいない」人は多くなり、30～64歳では6割以上となっている。

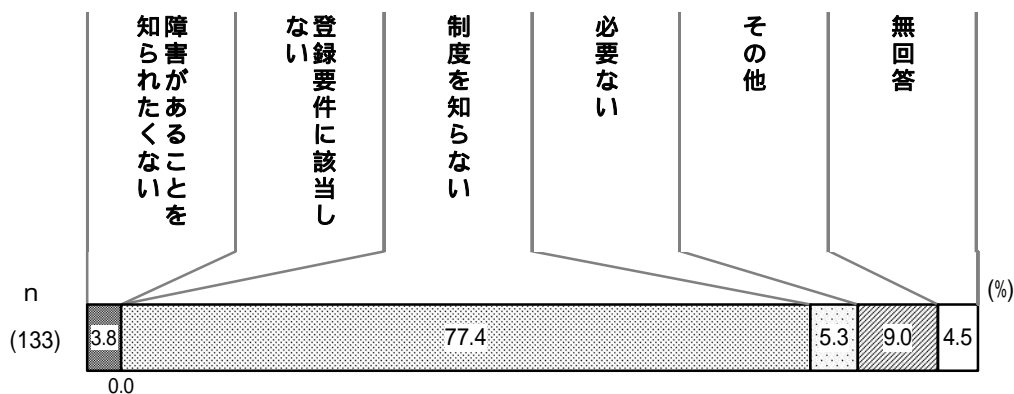
【療育手帳の種類別】

上段：件数 下段：%	調査数 (n)	申し込んでいる	申し込んでいない	無回答
全体	222 100.0	84 37.8	133 59.9	5 2.3
療育手帳A	189 100.0	70 37.0	114 60.3	5 2.6
療育手帳B	32 100.0	13 40.6	19 59.4	0 0.0
わからない	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0

療育手帳の種類別では、大きな違いはみられない。

(4)(3)において「2 申し込んでいない」を選択した方におたずねします。

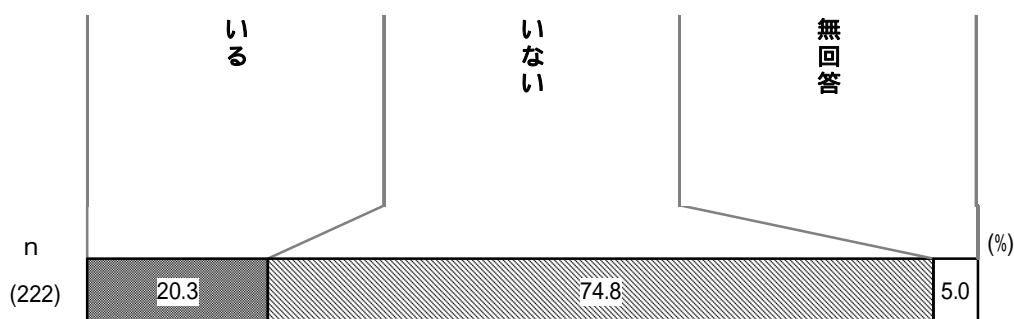
その理由は何ですか。(S A)



災害時における要援護者情報登録制度を申し込んでない理由については、「制度を知らない」が77.4%を占めており、制度の認知度は低い。

一方、「障害があることを知られたくない」人は3.8%いる。

(5) ご本人には家族以外の方で、地震などの災害時に手伝いや支援をしてくれる特定の方はいますか。(S A)



災害時に手伝いや支援をしてくれる人が「いる」人は20.3%となっており、一方の「いない」人が74.8%を占めている。

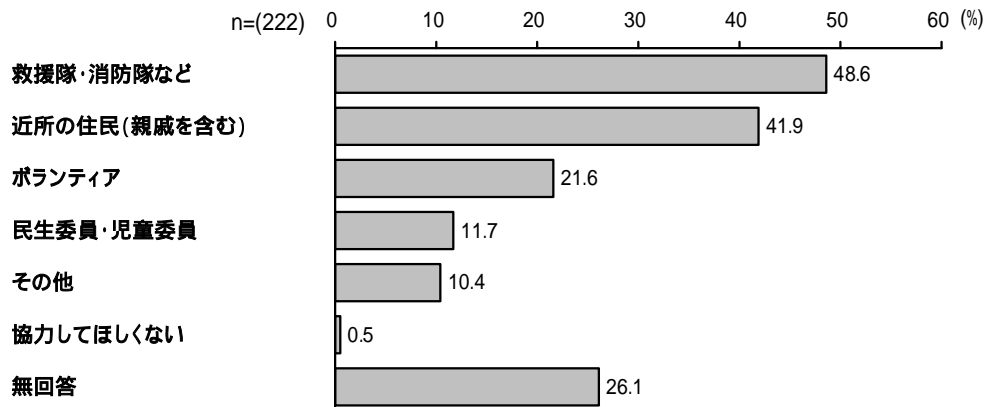
(6)(5)で「1 いる」を選択した方におたずねします。

家族以外の方で、地震などの災害時に手伝いや支援をしてくれる特定の方はどなたですか。

(MA)

また、(5)で「2 いない」を選択した方におたずねします。

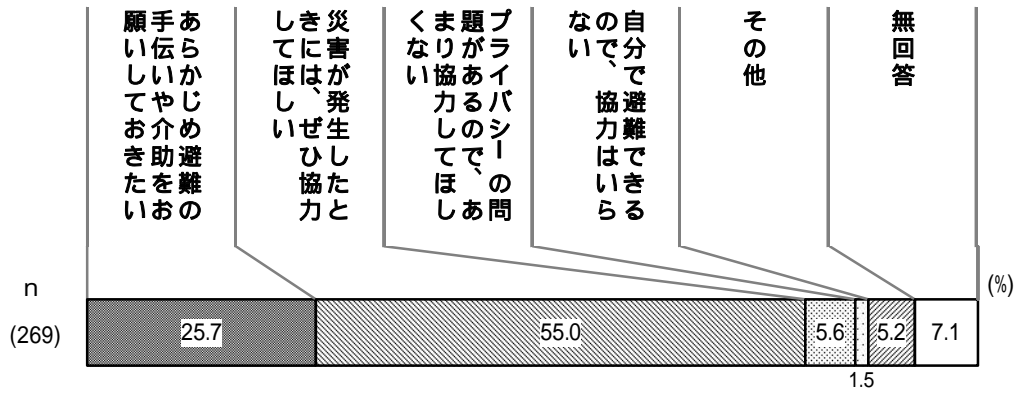
どなたに助けてほしいとお考えですか。(MA)



災害時に手伝いや支援をしてくれる人や希望する人については、「救援隊・消防隊など」(48.6%)が最も多く、以下「近所の住民(親戚を含む)」(41.9%)、「ボランティア」(21.6%)となっている。

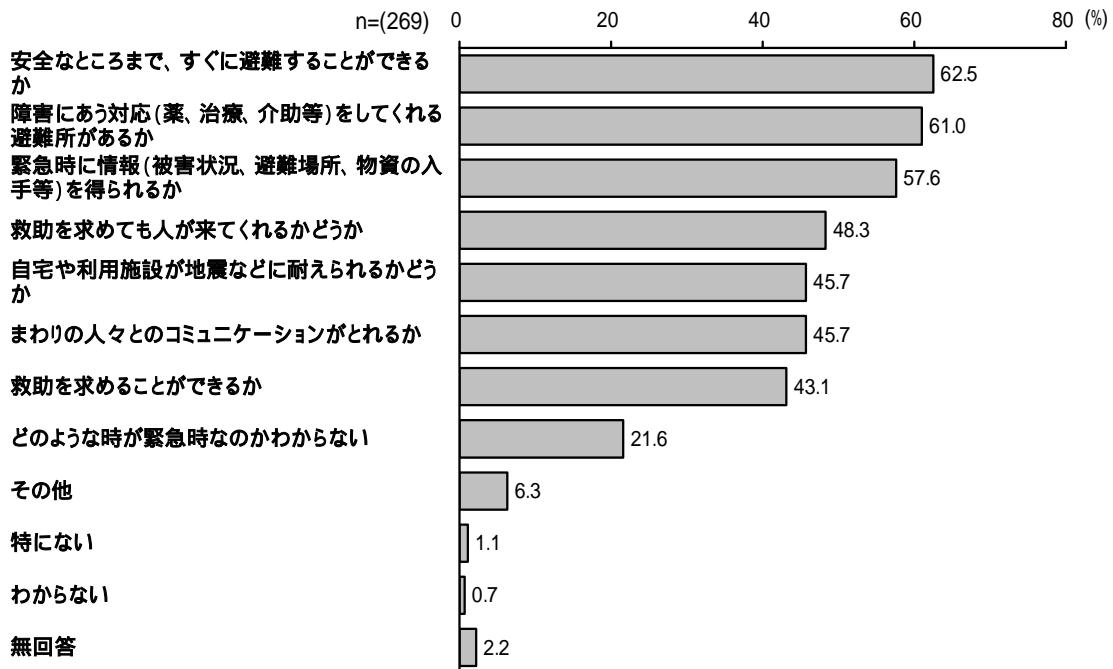
問 52 地震などの災害が発生したときのために、あらかじめ近所の人やボランティアなどにご本人の避難の手伝いや介助をお願いしておくことについて、どのように思いますか。

(S A)



災害発生時に備えてあらかじめ近所の人などに支援を依頼しておくことについては、「災害が発生したときに、ぜひ協力してほしい」(55.0%)が最も多く、以下「あらかじめ避難の手伝いや介助をお願いしておきたい」(25.7%)となっている。

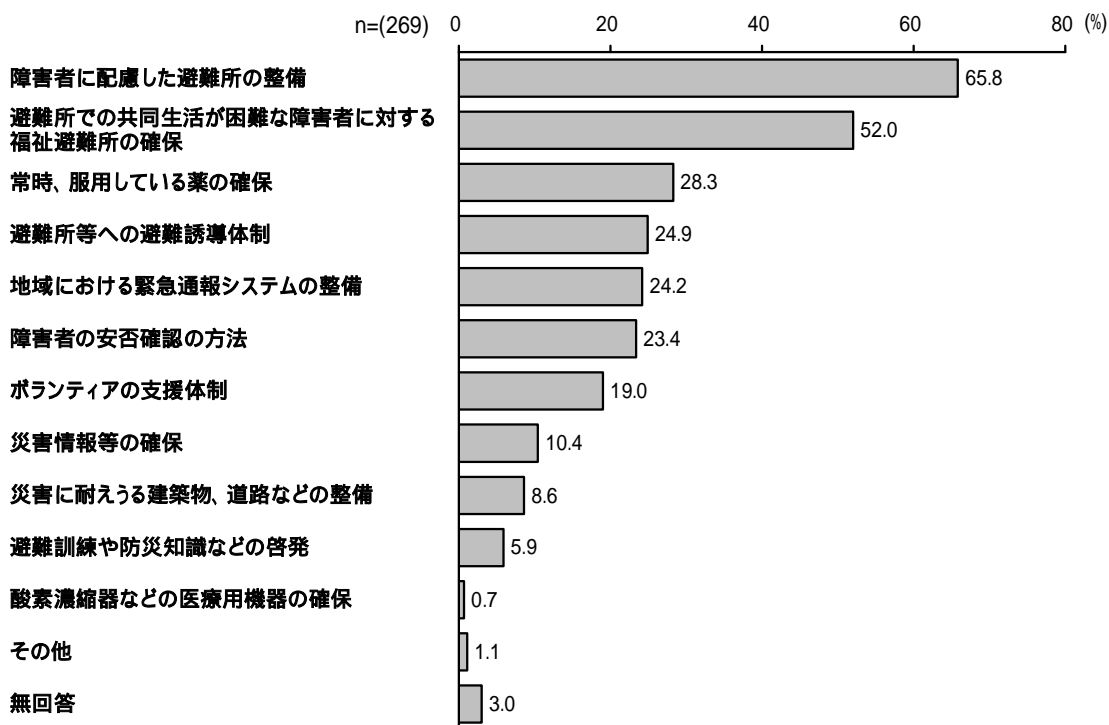
問 53 地震などのいざという時、ご本人のことで、あなたがふだん不安に感じていることは何ですか。(MA)



地震などのとき、ふだん不安に感じていることについては、「安全なところまで、すぐに避難することができるか」(62.5%)、「障害にあう対応(薬、治療、介助等)をしてくれる避難所があるか」(61.0%)、「緊急時に情報(被害状況、避難場所、物資の入手等)を得られるか」(57.6%)が多く、以下「救助を求めても人が来てくれるかどうか」(48.3%)、「自宅や利用施設が地震などに耐えられるかどうか」、「まわりの人々とのコミュニケーションがとれるか」(ともに45.7%)となっている。

問 54 地震、台風などの災害に対してもっとも大切と思う対策はどんなことだと思いますか。

(M A)



災害に対して最も大切と思う対策については、「障害者に配慮した避難所の整備」(65.8%)が最も多く、以下「避難所での共同生活が困難な障害者に対する福祉避難所の確保」(52.0%)、「常時、服用している薬の確保」(28.3%)、「避難所等への避難誘導體制」(24.9%)、「地域における緊急通報システムの整備」(24.2%)、「障害者の安否確認の方法」(23.4%)、「ボランティアの支援体制」(19.0%)となっている。

【年齢別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	障害者に配慮した避難所の整備	福祉避難所での共同生活が困難な障害者に対する確保	避難所での共同生活するが	常時、服用している薬の確保	避難所等への避難誘導	地域における緊急通報システム	障害者の安否確認の方法	ボランティアの支援体制	災害情報等の確保	物、道路など耐えうる建築物の整備	避難訓練や防災知識などの啓発	酸素濃縮器などの医療機器の確保	その他	無回答
全体 269 100.0	177 65.8	140 52.0	76 28.3	67 24.9	65 24.2	63 23.4	51 19.0	28 10.4	23 8.6	16 5.9	2 0.7	3 1.1	8 3.0	
17歳以下 0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
18～29歳 26 100.0	16 61.5	12 46.2	3 11.5	8 30.8	5 19.2	10 38.5	7 26.9	2 7.7	3 11.5	3 11.5	0 0.0	0 0.0	1 3.8	
30～39歳 37 100.0	22 59.5	18 48.6	11 29.7	8 21.6	9 24.3	7 18.9	4 10.8	2 5.4	3 8.1	0 0.0	1 2.7	0 0.0	3 8.1	
40～49歳 28 100.0	16 57.1	19 67.9	7 25.0	5 17.9	5 17.9	5 17.9	4 14.3	2 7.1	4 14.3	4 14.3	0 0.0	0 0.0	2 7.1	
50～64歳 122 100.0	84 68.9	68 55.7	43 35.2	29 23.8	26 21.3	24 19.7	27 22.1	16 13.1	6 4.9	5 4.1	1 0.8	2 1.6	1 0.8	
65～74歳 38 100.0	26 68.4	16 42.1	8 21.1	12 31.6	13 34.2	11 28.9	9 23.7	5 13.2	4 10.5	4 10.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	
75歳以上 8 100.0	7 87.5	4 50.0	1 12.5	3 37.5	3 37.5	3 37.5	2 25.0	0 0.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

年齢別にみると、「障害者に配慮した避難所の整備」では50歳以上で、「避難所での共同生活が困難な障害者に対する福祉避難所の確保」では40～64歳で、「常時、服用している薬の確保」では50～64歳で他の年代に比べ多くなっている。

【療育手帳の種類別】

調査数 (n) 上段：件数 下段：%	障害者に配慮した避難所の整備	福祉避難所での共同生活が困難な障害者に対する確保	避難所での共同生活するが	常時、服用している薬の確保	避難所等への避難誘導	地域における緊急通報システム	障害者の安否確認の方法	ボランティアの支援体制	災害情報等の確保	物、道路など耐えうる建築物の整備	避難訓練や防災知識などの啓発	酸素濃縮器などの医療機器の確保	その他	無回答
全体 269 100.0	177 65.8	140 52.0	76 28.3	67 24.9	65 24.2	63 23.4	51 19.0	28 10.4	23 8.6	16 5.9	2 0.7	3 1.1	8 3.0	
療育手帳A 208 100.0	143 68.8	115 55.3	61 29.3	51 24.5	44 21.2	52 25.0	38 18.3	20 9.6	16 7.7	10 4.8	2 1.0	3 1.4	6 2.9	
療育手帳B 59 100.0	32 54.2	24 40.7	14 23.7	16 27.1	21 35.6	10 16.9	13 22.0	8 13.6	6 10.2	6 10.2	0 0.0	0 0.0	2 3.4	
わからない 0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	

療育手帳の種類別にみると、療育手帳Aの人は「障害者に配慮した避難所の整備」、「避難所での共同生活が困難な障害者に対する福祉避難所の確保」、「常時、服用している薬の確保」で療育手帳Bの人を上回っている。療育手帳Bの人は「地域における緊急通報システムの整備」でやや多い。

11 知的障害者の家族の自由回答

アンケートに、自由に発言していただける欄を設けたところ、意見数は120件であった。以下に主な意見を抜粋し、まとめた。

ヘルパーや施設職員など、「障がい者のために働く方々」が多くなるように、給料をたくさんあげて、国からの援助（働いてくださる方への）もできるだけ受けられるようにと願っています。障害のある方々のために日々頑張ってください、本当にありがたく感謝の思いでいっぱいです。

医療ケアが必要な重度の障害がある20歳の子どもがおります。将来的にはケアホームを希望しておりますが、残念ながら見通しはまだ暗いです。せめて、月1回くらいの短期入所を希望しても、ショート先の事情などで予定通り利用できなかつたりすることが多々あります。「医療ケア」という部分で、受ける福祉サービスもかなり制限されるのが現状です。以前障福センターの入浴サービスを利用したことがあります。設備もしっかりしていて安心して利用することができました。ただ、今他の通所施設に行っている場合、そのサービスは受けることができず、「子どもの入浴」が今一番の悩みです。親の課題として、「医療ケア」もOKのケアホームを実現するには、親はどう動いていけばよいのか。短期入所は受け入れ側の事情に左右されない確実な利用を求めるには入所先へどう働きかければよいのか。絶対的に「医療ケア」ありの入所施設が不足してると思われる。でも親としては、そこにずっと寝かせられればなしの、子どもの状態は避けたい。生活の中の「医療ケア」はほんの一部でしかない。施策を考えられる行政側の方々のご苦労も多々あると思います。でも、20歳の頃、何かの楽しみ、思い出はあると思います。親としてはたくさんの方たちの手を借りながら、子どもにもそんな楽しい思い出や明るい将来設計ができたかと考えております。

ただの介護をしています。ヘルパーなどの援助には満足していますが、車イスにのせて病院、ショートステイなどへ向かう時、介護タクシーの少なさと、時間がかかることに不自由しています。仙台はタクシーがあふれているのですから、介護タクシーの台数を増やしてほしいです。料金も高いと思います。移動に時間と料金がかかりすぎます。

町内会などの民生委員の方などの事前に電話などで、確認のうえ家庭訪問などをして（高齢者一人暮らしなどと同じように？）。ここにもいるんだということを知ってほしい。避難所などのほかの人との距離をおいた場所があれば安心できる。一番の不安は、高齢者と小学校低学年の子どもが一番、障がい者に理解が得られないの日々感じている。

本人は自閉症です。障害区分認定で、いつも困っています。知的障害もあるものの自閉症特有のかたよりのため、言語やコミュニケーションはかなり難しいのに、他で高い分野があると、平均して「軽度」に判定されてしまいます。学校時代の友人でも、生活する力や会話はさほど支障がなくとも、いわゆる「知能」が低いために「重度」の判定を受け、一般企業の障がい者枠で働いていて十倍以上の収入を得、年金申請もすんなり通ったそうです。自閉症はある分野で高い能力があっても、実生活ではこだわりや対人関係、認知面で、かなり困難を有するケースが多く、就労も厳しい状況です。判定では中程度で工賃も5000円/月。年金申請もかなり厳しく、普段から共に生活するのに困難をかかえている家族としては、やりきれなくなります。区分認定の改正を強く望みます。それから、福祉施設の通所希望調査時には空が「0」だった施設に、新年度、第二希望だった人が入っていました（その方が後で話していました）。不公平感が否めません。すべてが平等ということは望んでいませんが、もっと各障害のこと分かってほしいと思います。本当に困っている人のこと、考えてほしいです。

急な預かり施設が充実していない。家族が休養できる施設の充実。数が少なく近くなかったり、事前の登録が必要だったり。料金も高いような気がする。

通所施設の新規開設。レスパイトケア施設の確保。ケアホームの確保などの件案が、地域住民の一部の方々の反対により、その計画が全く進まず、本人と家族の将来、現在の不安は全く解消されません。長期にわたってもなおかつ、その実現が危ぶまれる状況です。その緊急性、必要性は仙台市におかれても最大限に理解されているはずだと思っています。仙台市行政によるバックアップが強力に発揮されることを望みます。同時に障がい児、者の理解の一般の人々への浸透がもっと深まり、広まるための行政主導の企画や啓蒙活動をもっともっと行ってほしいです。

知的障がい児、者の福祉政策の会議には、障害年齢の各年代の保護者を入れてほしい。障がい児、者の年齢で求めているがことが違ってくる。成人の知的障がい者でも体力のある20代30代と40代、50代や60代以上では日常の過ごし方や緊急時に求めることが違う。どうしても高齢の知的障がい者の保護者が意見を言う機会が多く、若い親は発言する機会を得ることができない。公開討論などを聞いてほしい。

将来については、親が元気なうちは一緒に暮らしたい。親が高齢になったらグループホーム、ケアホームで暮らすほうが本人に合っていると思う。自閉的な特性のため、大きな集団には適応が難しいので、小規模なグループホーム、ケアホームの整備を切望します。障がい者施策について、国の基準に加え、仙台市で独自の加配をしていることは有難く、今後も継続をお願いします。

介護者が入院などで介護できなくなったとき、ショートもレスパイトも断られて困ったことがありました。前もって予定があり、早めに申しこめるときは良いのですが、身内の不幸や突然の入院など予測できない緊急の時こそ受け入れ先が必要なのですが。

福祉避難所について情報が何もない。障害を持っている家族は指定避難所に行っても、居場所がなく困惑するのみ。

親が高齢化し、種々難題が山積みしてきています。その中でもケア、グループホームへの家賃の補助、世話人などの人件費の増額、病気入院時の対応、区分認定の改善など、ぜひ検討いただきたく思います。

将来、親亡き後の安心して生活ができるグループホームなどの（ハード、ソフト両面）充実を求めます。福祉サービスにあたる職員のスキルを全体的に向上させてほしい（勉強、経験不足）。地域、施設、医療の連携の充実。福祉サービスの利用料は障がい者本人の負担額を無料にしてほしい。

知的障がい者の就労は、地域または職場における理解と支援がなければ成り立ちません。賃金の 倍増計画などの考えをよく聞くが、これを障がい者の理解なしに行われると、本人を傷つけ駄目にして立ち直れなくしてしまいます。能率は後回しにしてまず、障がい者であることを前提とした職場環境と、社会作りが肝要であると思います。

